

全船協

第127号 2015年1月 新春号



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

URL <http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/>

<p>室町海運株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤裕信</p> <p>〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目5番5号 城南ビル5階</p> <p>電話 (03) 5298-2570 FAX (03) 5298-2575</p>	 <p>北星海運株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤有造</p> <p>〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目18番2号</p> <p>電話 (03) 3564-5050(代) FAX (03) 3567-1657</p> <p>1月19日(月)に転居します</p>
<p>株式会社 コトラシステム</p> <p>代表取締役 土屋正徳</p> <p>〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13 日本橋鮎佐ビル3階</p> <p>電話 (03) 3245-6975 FAX (03) 3245-6980 E-mail: cotrasystem@nifty.com</p>	<p>山友汽船株式会社</p> <p>代表取締役社長 望月正信(広島N-71)</p> <p>顧問 岩江成徳(広島N-55)</p> <p>〒650-0015 兵庫県神戸市中央区多聞通2丁目1番1号 多聞プラムビル2階</p> <p>電話 (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520 Email: sanyuksn@violin.ocn.ne.jp</p>
<p>一般社団法人 日本船長協会</p> <p>会長 小島茂</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3265-6641 FAX (03) 3265-8710 http://www.captain.or.jp</p>	<p>一般社団法人 海洋会</p> <p>会長 豊田耕治</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地 (海事センタービル6階)</p> <p>電話 (03) 3262-8632 FAX (03) 3262-6909</p>
 <p>一般社団法人 日本船舶機関士協会</p> <p>会長 平井奉行</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3264-2518 E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp URL http://www.marine-engineer.or.jp</p>	<p>人と海に未来を</p> <p>公益社団法人 日本海難防止協会</p> <p>会長 前川弘幸</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号 磯村ビル6階</p> <p>電話 (03) 3502-2231 http://www.nikkaibo.or.jp E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp</p>
<p>・海技教育支援事業 ・奨学金貸与事業 ・帆船海王丸体験航海事業 等</p> <p>公益財団法人 海技教育財団</p> <p>会長 宮原耕治</p> <p>〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4</p> <p>電話 (03) 3288-0991 URL http://www.macf.jp</p>	<p>海上の友</p> <p>船員と船員家庭のタブロイド版新聞 月3回1.11.21日発行 年間購読料 本体価格(8,460円) + 税 送料別</p> <p>海と船の雑誌 ラメール</p> <p>年6回奇数月発行 年間購読料 本体価格(4,002円) + 税 送料込</p> <p>お申し込み お問い合わせ (公財)日本海事広報協会</p> <p>〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6 電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580</p>

目 次

表紙・・・(地球深部探査船)ちきゅう 1 頁

巻頭言・・・年頭所感.....会長 岩田 仁.....4 頁

神津島・防長丸遭難者慰霊の旅.....大島商船高等専門学校 同窓会副会長 市川 博康.....5 頁

半世紀前の役員名簿 役員遺族からの寄贈.....事務局..... 9 頁

全国高等専門学校ロボコンコンテスト 2014 全国大会観戦記 大島商船高専 大島 圭介..... 10 頁

海・船の文化を UW 旗から.....北海道函館水産高.....12 頁

練習船文庫と全船協.....事務局..... 17 頁

(一社)横浜港振興協会 横浜港出前講座、その 13, 14, 15.....田中 善治.....18 頁

「練習船遠洋航海記」をご存じですか?.....事務局.....20 頁

第 16 回イレブンマリナーズ杯ゴルフコンペ開催 幹事 岩田 仁 21 頁

神戸支部「第 26 回といちクラブゴルフコンペについて..... 神戸支部長 福地 赴雄.....22 頁

平成 26 年度商船高専卒業生進路状況.....事務局..... 23 頁

海事ニュース.....24 頁

北から南から 富山高等専門学校.....26 頁

鳥羽商船高等専門学校.....29 頁

広島商船高等専門学校.....32 頁

大島商船高等専門学校.....42 頁

弓削商船高等専門学校.....48 頁

航海訓練所.....51 頁

本部・支部だより.....54 頁

お知らせ.....事務局.....56 頁

会費納入者御芳名.....59 頁

入会御礼・公開情報.....60 頁

海の図書室.....61 頁

時事寸評.....62 頁

表紙写真解説 地球深部探査船 ちきゅう62 頁

編集後記.....62 頁

巻 頭 言

年 頭 所 感

会長 岩田 仁

新たな年の幕開けに当たり、洋上で船内の仲間とともにまた陸上で家族とともに新年を迎えた会員の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

新たな気持ち、新たな決意で新年をお迎えしたことと存じます。

今年も幸多い、安らかな年でありますようお願い申し上げます。



昨年は我々船員には忘れられない痛ましいセウォル号の転覆事故がありました。船の重責を担う船長が乗客や乗組み員の救助指揮も取らずに下着姿で船橋から救出される映像に大きなショックを受けました。茶の間のテレビ画面に大写しされる度に船員としてやるせない気持ちになった会員も多かったことと思います。

テレビのワイドショーでは転覆した船体映像をバックに事故原因について疑問符のつくような解説もありました。この事故は、操船、積み荷、などが取りざたされておりますが、それだけではないような気がします。日頃からの乗組員の安全教育と訓練などソフト面での見落としや不注意の連鎖の結果と申せましょう。転覆の引き金となった原因は一つかもしれませんが、伝ってくる多くの情報を重ね合わせ考えてみますと今回の転覆に至るには多くの原因があったものと推測されます。セウォル号の事故から学ぶべきものは多い。日本では起こり得ないと切っ捨て捨てるのではなく、この事故を他山の石とし、もう一度謙虚に各自の持ち場に多方面から光を当て見落とし思い込みが無いかな再点検し「事故ゼロ」に生かしてほしいものです。

伝統ある全船協の会長に就任して半年が経過しました。全船協は初代の大型練習帆船日本丸、海王丸の建造運動による商船教育基盤の充実運動を契機として発足した十一会を引き継いで創立した協会であり、商船教育の充実と振興の精神は地方の公立商船学校を国立移轄とする運動や、商船学校から商船高専への昇格運動へと引き継がれてきました。

船員教育機関が今後の国際競争のなかで実力を発揮し社会に貢献できる人材を育てていくためには他の教育機関との共学、産業界、地域社会との幅広い連携が必要です。言うところの産、官、学の連携が不可欠です。このような船員教育機関に対する社会的環境の醸成に貢献することこそ先輩から引き継いだ全船協の使命と考えております。

15歳人口の減少、中・高一貫教育の普及・4年生大学への進学率の増加などの影響により高専商船学科への入学志願者は低迷していますが、中学・高校への出前講座、進学ガイダンスへの支援などをこれからも継続し船員教育機関への応援を続けて行く所存です。

皆さんの力を結集して、先輩からの思いを継承してゆくべく決意を新たにしております。

神津島・防長丸遭難者慰霊の旅

大島商船高等専門学校
同窓会副会長 市川博康

イ. 神津島の概要

神津島は伊豆七島のひとつで伊豆半島の南にあり、島名の由来は、その昔、事代主命という神様が、島づくりのために神々を集めて相談する拠点としたのが「神集島」であり、そこから神津島と名付けられたと言われている。

島は一村一集落で、約 4k m²の地域に平成 26 年 6 月 1 日現在 866 世帯、人口は 1930 人の方々が生活をしている。

島の周囲は一部には綺麗な砂浜が広がっているものの、そのほとんどは断崖絶壁の険しい海岸線となっており、太平洋の荒波が激しく打ち寄せては砕け散っていた。

現在、この島は、主として夏期において、遊泳、サーフィン、釣り、ファミリーキャンプ等で毎年たくさんの人々が訪れる自然豊かな美しい島である。



ロ. 神津島への慰霊の旅

今般、同窓会を代表して、酒迎会長、古賀事務局長、及び筆者の 3 名が 8 月 7 日～9 日、2 泊 3 日の予定で東京都神津島村を訪れました。

尚、台風 11 号の影響により交通手段である大型客船及びジェットフォイルの欠航が 2 日間続き、実際に島を離れたのは 11 日となった。

8 月 7 日

岩国空港から旅は始まり羽田空港へ、当日の 23 時、東海汽船の“さるびあ丸”にて浜松町の竹芝を出港した。

8 月 8 日

竹芝を出港の翌朝 0850 時神津島へ入港した。

到着当日の午前中、今回の防長丸の件で大変お世話になった村役場産業観光課主幹の石田さんの案内で神津島村役場を訪れ、石野田村長を表敬訪問、今回の神津島訪問の目的についてお話をし、防長丸の海難記なる銘板を新たに設置していただいたことに対し謝意を表した。

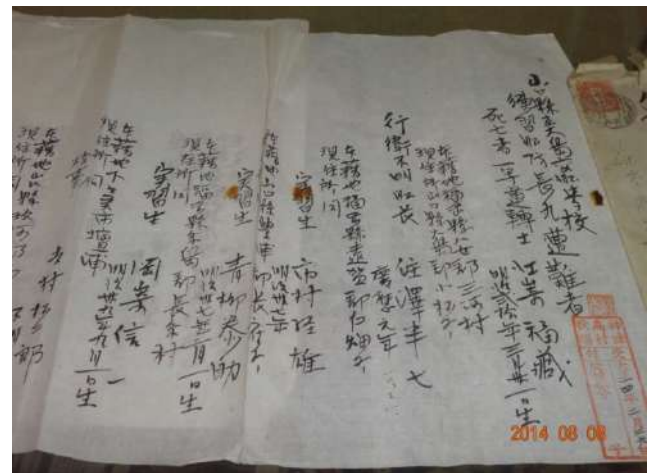
ここ役場では、今まで見たことのない防長丸に関する新たな発見があった。神津島村史には防長丸遭難に関する記述があり、防長丸乗組員の名簿、遭難状況、並びに消防組、在郷軍人会、青年団等、村を挙げての救助作業、更に防長新聞の本件に関する記事、また、山口県内務部から遭難者家族宛の報告などが記載されていた。

その後、神津島村郷土資料館を訪れた。ここには島の文献資料や歴史ある生活用具等が数多く展示されており島の自然、産業、文化遺産等の歴史を見ることができる。

この資料館の2階の一角に防長丸の遭難に関する資料が展示されており、ここでも新たな発見があった。

その中には防長丸の遭難者の詳細な名簿や商船学校創立 77 周年記念日の合祀慰霊祭並びに元練習船防長丸遭難 50 周年慰霊祭にあたり、島から係官が学校へ派遣され丁重なる

“慰霊のこぼ”をいただいたことに対する、当時の鮫島直人校長の村長宛(昭和 49 年 10 月 5 日付)のお礼状等が展示されているなど、貴重な資料が多数存在していた。



午後は同じく村役場産業観光課主幹の石田さんに加え、元村役場産業観光課長の前田さんの案内で島の南東岸にある松山遊歩道を訪れた。

防長丸が座礁・沈没した現場を眼下に見下ろす松山鼻の展望台には、新しい木枠を組んだ架台に“防長丸の海難記”と記された銘板が設置されていた。

年月は既に 89 年が過ぎ去っているが、ここで花束、お線香を手向け、合掌、花束を海へ投下して亡くなった方々のご冥福をお祈りした。

(ここは以前、転落防止用の保護柵のみが設置されており、碧い海と岩礁に荒波が打ち付け白波が無い上がる景観を楽しむだけの展望台であった。)



松山鼻 (この沖の岩礁に座礁・沈没した)

長っ崎

今回の神津島訪問の目的はこれで達成したが、その後は前述のお二人に、お忙しい中、島内の名所、史跡等をご案内していただき本当にお世話になりました。

8月9日、8月10日

大型客船、ジェットフォイルともに台風11号の影響で欠航となり前述のご両名の方々には毎日、名所、史跡、観光スポット等を車でご案内していただきました。

おかげさまで名所、史跡、景勝地など一般の観光客では網羅できないような神津島を全て堪能することができました。

8月11日

台風11号が日本海へ去り、幸いにも熱海へ向かうジェットフォイルが運航を再開するとのことで11時35分神津島をあとにした。



ハ. 神津島訪問の目的

今回の神津島への旅は2013年12月17

日、神津島役場産業観光課主幹の石田さんから当校への電話がきっかけとなった。

その電話の内容は防長丸の海難の事実確認、座礁沈没した岩礁のある松山鼻の展望台に史実として“防長丸の海難記”なる銘板を設置することに対する学校側の諒解を確認するというものであった。

2014年3月10日、新しい架台と銘板が設置されたことにより、学校の同窓会として関係者の方々への御礼、並びに遭難により犠牲となられた方々の慰霊のため島を訪れることを決定した。

筆者

古賀事務局長

酒迎会長



ニ. 防長丸海難事故の概要

防長丸は第一船「海平丸」、第二船「山口丸」に続く、第三船として購入された総トン数 270 トン三本柱のバーケンチン型の帆船で、大正13年3月21日小松港に初入港した。

本船は大正13年5月10日、船長、乗組員及び実習生第25期生16名、総数22名を乗せ東京に向けて処女航海の途についた。

大正13年12月18日午後3時、宇品港に向けて東京を出帆し帰路についたが、その途次である12月26日、逆風のため航海の継続を断念、静岡県妻良港に避難し56日間もの間、順風を待つこととなった。

大正14年2月21日、風向が東南東となり正午同港を出帆し、目的地に向け順調に航海を再開した。

翌22日正午過ぎから北西の疾風となり、夕刻頃には三重県三木崎20湊の地点まで到達していたが、その頃より風向は西風～北西となり、且つ風力が漸次強まり風力は8～9に達した。

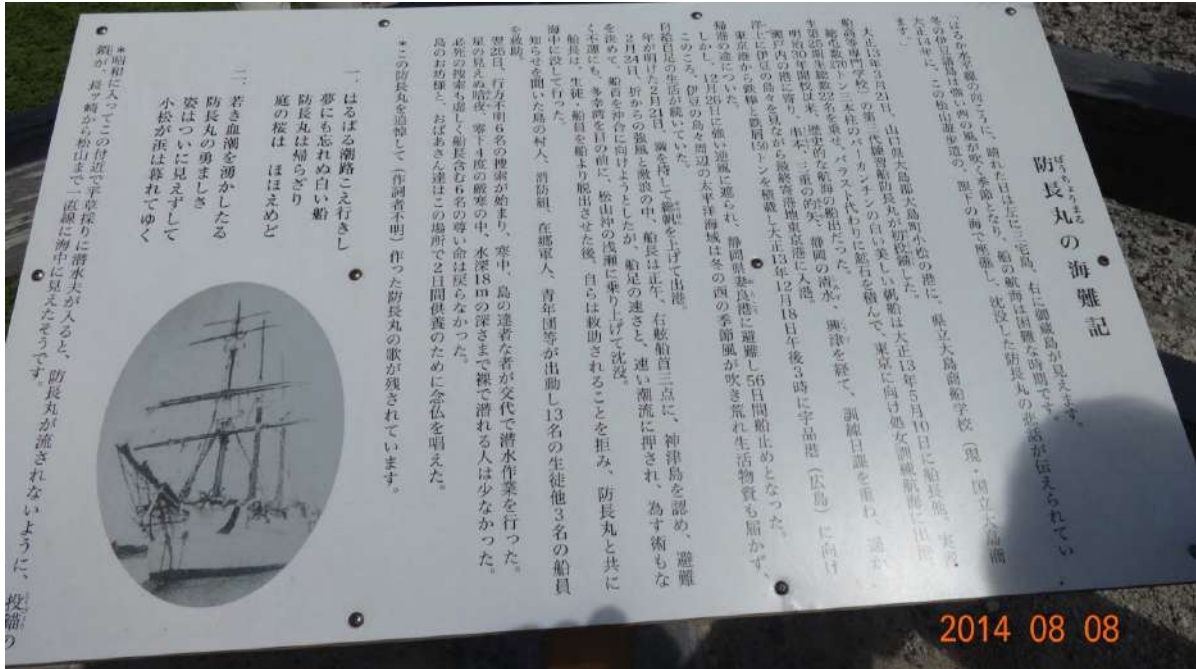
24日正午頃、伊豆神津島を右舷船首3点に認め、その南東岸にある多幸湾に避難することとした。(筆者注：西風と黒潮で東へ大きく流された)

同日午後7時頃、突然風力が弱まって順風となった。船長は島の南東岸の至近距離にあると感じ種々

操船を試みたが叶わず、潮流に押し流され、松山鼻沖の岩礁に乗り揚げ午後7時40分頃沈没した。

乗船していた22名の内、13名の生徒と3名の船員は陸岸に泳ぎ着いて地元の方々に救助されたが、残る6名は行方不明となった。

翌25日には潜水作業を始め、一等運転士、26日に生徒1名、3月1日に船長の遺体が発見されたが、残る3名は行方不明のままである。



松山鼻展望台に新しく設置された防長丸海難記の銘板

ホ. 後書き

防長丸の遭難に際しては2月という極寒の季節、大時化で零下4度の厳寒の暗夜にも拘らず、消防組・在郷軍人会・青年団等、村を挙げて船員や学生の救助活動にあたり、16名の人命が救助されたこと、また6名の行方不明者等（3名遺体発見、3名行方不明）に対する通夜、供養など手厚い待遇をしていただいたことなど、神津島の人達の温情味溢れる対応には頭が下がり感謝の気持ちを再認識しました。

大正14年3月4日付の防長新聞には“生存者 遭難当時の状況を語る”との記事があり、遭難に至った状況の記述とともに、島の方々の親身な救助活動や死亡者に対する懇切丁寧なる対応など感謝に堪えないものがある。と掲載されている。

更に、防長丸の海難事故に対し長年に亘り関心を持ち続け、調査、史料の収集等を続けてこられ、今回の銘板設置のきっかけを作って下さった元神津島産業観光課長の前田さん、また実際に設置に向けて様々なご尽力をいただいた現神津島産業観光課主幹の石田さんに心からの感謝と御礼を申し上げます。



松山鼻にて、今回の件で大変なご尽力をいただいた前田さん、石田さんと一緒に記念撮影

以上

【編集部より】本稿は、“北から南から”大島商船同窓会の記事として投稿されましたが、「全船協 80周年記念行事の“記念展示パネル”で「公立商船学校練習船」でも紹介した防長丸海難に関する記事で史実として貴重なものであり、「北から南から」と切り離して紹介することにしました。

半世紀前の役員名簿

遺族から寄贈

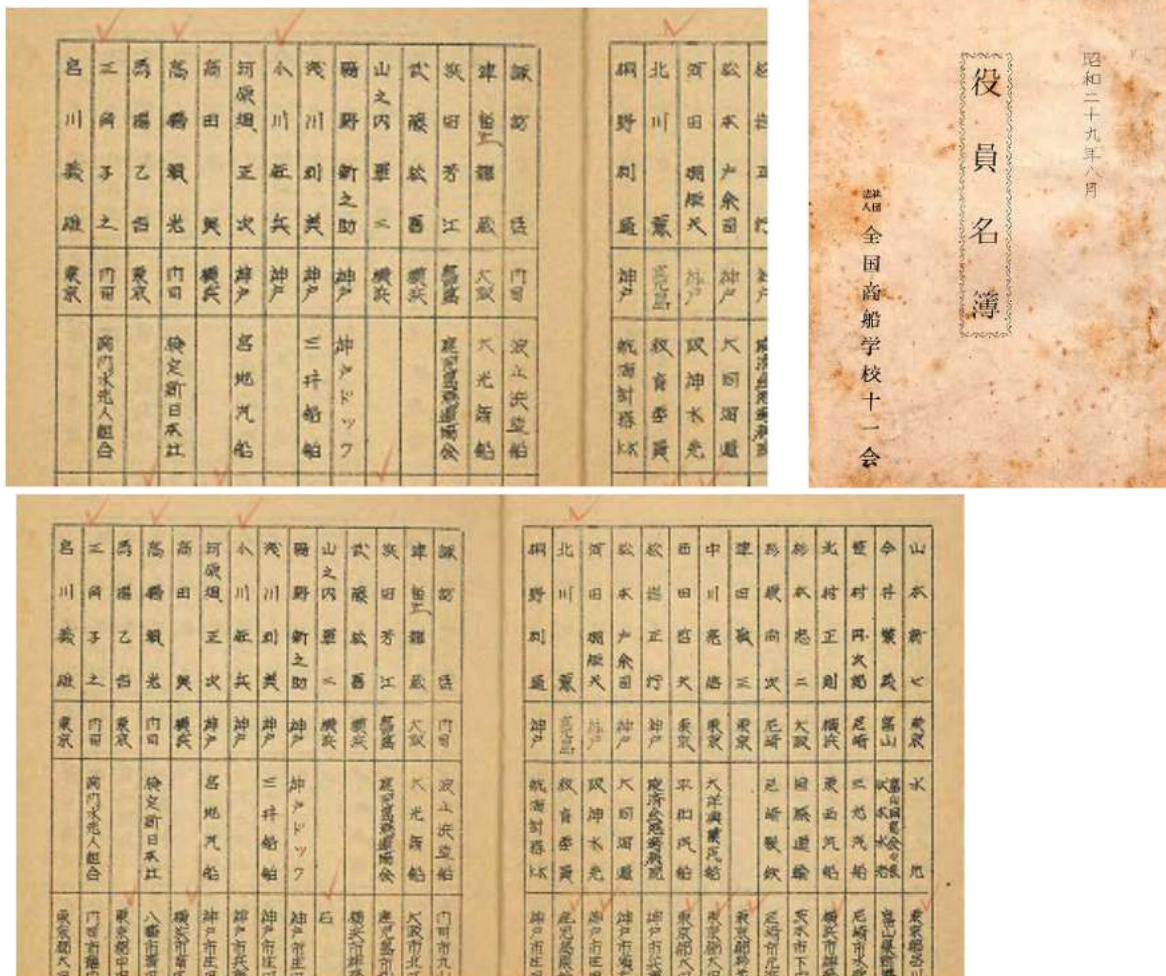
昭和29年8月時の社団法人「全国商船学校十一会」の役員名簿が祖父の遺品の中から見つかり、当協会に寄贈したい旨の連絡が7月半ばにありました。

協会としては珍しい遺品でもあり、早速遺族の方に連絡を取り、郵送して頂きました。

内容としては、会長 小山 亮、副会長 神足 徳三郎 以下常務理事 13名、理事 84名、監事 5名、評議員 141名の合計 245名の氏名、在住地、勤務先、住所に付いて記入されています。(昭和28年度末の正会員数は3,354名)

参考までに当時の会報(海国時報 第202号 B5版 98頁)の目次は

1. 巻頭言
 2. 政界の革新と海運界の発展
 3. 時言三題
 4. ユニオン・ショップ制の問題
 5. 法人制度について
 6. 問答随筆
 7. 無題
 8. 所感片々
 9. 支那海賊譚
 10. 世界とところどころ失敗回顧録
 11. 港
 12. 佐藤広政君を偲ぶ
 13. アラフラ海真珠事業の再開について
 14. NoとYesの遣い分けについて
 15. 研究(英語と米語の相異について)
 16. 海技試験問題
 17. 山下主事を迎えて
 18. 御挨拶
 19. 学校だより
 20. 同窓会便り
- 等時代を捉えた素晴らしい記事であった。



※名簿の記事の一部(個人情報に配慮し、住所部分を途中で省略)

全国高等専門学校ロボットコンテスト 2014 全国大会観戦記

大島商船高専 大島 圭介

「おお、また勝ったぞ！」・・・揃いの真っ赤なハッピー、ジャンパーに身を包んだ老若男女が陣取る応援席より歓声が上がる。

2014年11月23日、秋晴れのもと両国駅に降り立った。全国大会参加を決めた各校の色とりどりの幟がところ狭ましと秋風にはためく中、我が校の幟目指し足を進めた。

両国国技館で開催された「全国高等専門学校 ロボットコンテスト 2014」の応援観戦をする為だ。今回大島商船は昨年に続き、また全国に5つある商船高専の中で唯一の全国大会出場を果たした。

今年の競技課題は「出前迅速」、各校の作成したロボットが“蕎麦の蒸籠(せいろ)”を可能な限り積み上げ、3ヶ所ある障害をクリアして出前先まで蒸籠を届ける競技だ。



競技方法は1試合2チームが対戦し、3分間の間に多くの枚数の蒸籠を出前先に届けた方が勝利となる。一度に運ぶ蒸籠の枚数は各チームまちまちで、スタート前にチーム毎に枚数の申告を行うものである。

大島商船は“大島具足蟲(おおしまぐそくむし)”という具足蟲をモチーフとしたロボットで出場した。木材を骨格にした造りで他チームのそれ(アルミ等金属材料ベース)とは異なり、その動作も非常に遅く、正直なところ“迅速”性は望めないものであったが、対戦チームのミス等もあり、一度も蒸籠の“出前”を果たせない中、審査員判定でまさしく“運”に助けられ、あれよあれよと言う間に準決勝まで勝ち上がっていった。



準決勝においても蒸籠の出前を果たせず、得点を上げることが出来なかったが、25チーム参加した中で、ついには全国ベスト4まで登りつめる事となった。準決勝では優勝校に敗れはしたものの、表彰式ではデザイン賞と特別賞を受賞する事となりOB・学生共に大盛り上がりの観戦となった。

観戦後は両国駅近くの居酒屋での懇親会を開催、教官、学生課の方々も参加頂き、両国ならではの“ちゃんこ鍋”に舌鼓をしながら、学生諸君の奮闘にて全国大会ベスト4になった話題で大いに盛り上がりをみせる事となったのは言うまでもない。

大島商船は現在、商船学科(旧航海学科、機関学科)(S科)、電子機械工学科(M科)、情報工学科(I科)の3学科編成であり、私の在学中はまだ“商船高専”色の濃い頃であったが、おそらく昨今は大分変わってきているのではないかと当日学生と話して感じた。上級生・下級生の上下関係をあまり意識することなく、自由な環境の中でのびのびと勉学に励んでいるのではなかろうかと。

ただ、他の“工業高専”とは違い、“商船”教育をベースに発展してきた我々の学校(風土や環境)であるからこそ培われる技術やノウハウ、また精神面もあるのではないかと卒業後時折感じることもあるし、現在でもそのような風土や環境は脈々と引き継がれ、また学生たちもそう感じる瞬間があるのではなかろうか(具足蟲、というネーミングも“工業高専”生では思いつかないのではないだろうか)。

社会人になると常に結果を求められる。今回は全4試合とも“出前”という結果を出せずに終わった。結果は勿論大事であるが、ロボコンを始めとした各種コンテンツを通じて、結果に到達するまでのプロセス(開発～試験～本番、また学生たちで議論・コンセンサスを得るといったこと)を社会人になるまでに経験しておくことは非常に大事である。ここに辿り着くまでのプロセスおよび結果を今後の糧とし、また来年も全国大会まで勝ち進んでもらいたいものである。

我々もまた応援観戦に参加し、観戦後の打上げを含め、学生諸君・OB・学校関係者との親睦を深めることを楽しみにしたい。



以上

1 活動の動機

横浜を歩いていると「海や船の文化を大事にしている」と感じる。かつて、函館も北洋漁業と青函連絡船が栄えた頃は「海くささ・船くささ」があったと思う。ところが、青函トンネルが開通し、さらに平成 27 年 3 月、北海道新幹線が開業するに至って、函館から「海くささ・船くささ」がさらに遠のくことと思われる。一方で、ここ数年、内外の超豪華客船の函館寄港が相次いでいるが、残念ながら「観光」が強調され、「海・船の文化」を広く市民のものにするには至っていない。

本校は航海訓練所の練習船が函館に入った時、「手作りの入港記念パネル贈呈」や、出港時の「UW 旗掲揚」活動を行っており、本稿では、これらの些細な活動が、函館に少しずつ「海・船の文化」を根付かせる可能性を持っていることを紹介する。

2 「手作りの入港記念パネルの贈呈」活動

① きっかけ

航海訓練所の練習船ともなれば恐れ多く、近寄りがたい存在であるが、親しく UW 旗を掲げてお見送りできるようになったきっかけは、巨大模型帆船教材「北光丸」との絆である。

「北光丸」は、函館商船学校から本校が引き継いで保管していたものを、昭和 56 年に、練習船「大成丸」（橋本 進 船長）が函館から横浜まで運び、全船協創立 50 周年記念事業のひとつとして、一千数百万円かけて復元された巨大模型帆船教材である。現在は、世界に誇る本邦商船教育のシンボルとして横浜港大さん橋ふ頭国際旅客船ターミナルホールに展示され、横浜を訪れた世界の人々が目にし、その巨大さ、緻密さに驚嘆している。

このような絆で、本校は見学旅行（修学旅行）の際、平成 22 年は「北光丸」のマストに函館商船学校旗を、平成 24 年には日章旗を掲げ、平成 25 年には函館商船学校校歌と本校校歌を融合させたピアノ曲「海の絆」（編曲者；作道幸枝）を本校の女子生徒が「北光丸」前で演奏した。

以上のような活動ができるのも、もとをただせば全船協と「大成丸」のお陰である。このことに対し、本校として何かお礼をという思いから、平成 24 年、「大成丸」函館入港の時に、手作りのパネル（図 1）を差し上げた。このことが、以後のパネル贈呈活動のきっかけになった。

② 大成丸（平成 24 年 10 月）

アポもとらずに生徒と「大成丸」を訪れた。船長不在とのことで、パネルを航海士にお預けした。この日、大成丸を訪れた生徒は、船舶職員を強く希望していたこともあり、大成丸の航海士は、船内をくまなく案内してくださった。この生徒は、その後、見学旅行で、「北光丸」に日章旗を掲げる役を演じ、卒業後は、小樽水産高校の専攻科に進学して、海技士を目指して勉強している。



図 1 大成丸への寄贈パネル

訪船数日後、島根県隠岐島沖を航行する「大成丸」船長から本校にお礼の電話が入った。

③ 青雲丸（平成 25 年 8 月）

「青雲丸」の寺島船長、機関長、航海士の三役が本校を表敬訪問してくださった。この時、本校は船

長から「青雲丸」の空撮写真パネルを頂戴し、本校からは、GLAY の函館凱旋ライブが開催された直後だったこともあり、GLAY バージョンのパネル（図2）を差し上げた。



図2 青雲丸への寄贈パネル

④ 銀河丸（平成26年4月）

全船協から本校の活動を「銀河丸」船長に紹介していただき、奥船長を訪問。この時のパネルは、東京商船大学85周年記念寮歌「鵬程万里」の作詞者が函館にお住まいしていることから、「鵬程万里の里」バージョンのパネル（図3）を作って奥船長に差し上げた。



図3 銀河丸への寄贈パネル

奥船長は、富山商船高専（現「富山高専」）の教員として出向していた時、学生にシーマンシップを植え付けるために、カッター帆走で佐渡ヶ島まで航海したことや、ハワイから星を頼りに日本へ航海してきた筏「ホクレア」に同乗したこと等、血湧き肉躍るお話しをしてくださった。水産高校のカッター実習から「帆走」がめっきり少なくなり、カッター帆走技術が水産高校から失われるのではないかと危惧される時代、うらやましくもあり、頼もしくお話を拝聴した。

⑤ 海王丸（平成26年8月）

「海王丸」函館寄港。全船協から「海王丸」船長を紹介していただき、阪本船長を訪問。この時のパネルは、本年がペリー艦隊箱館来航160周年の記念の年に当たるので、「ペリー艦隊箱館来航160周年」バージョン1を差し上げた。

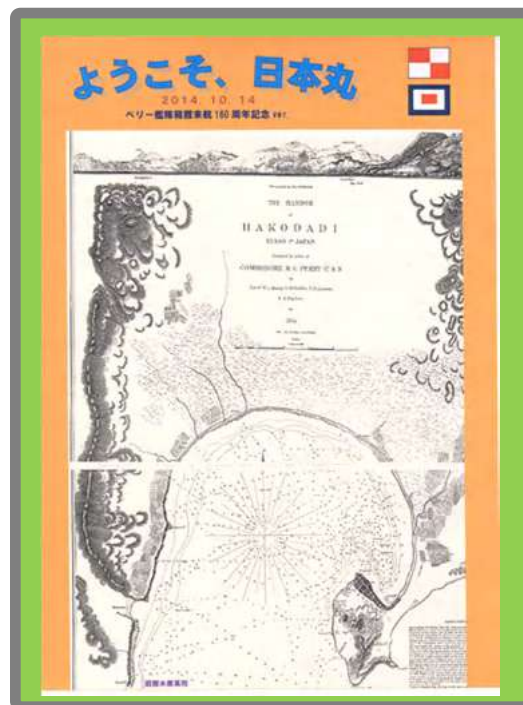


図4 日本丸への寄贈パネル

⑥ 日本丸（平成26年10月）

「日本丸」函館寄港。「日本丸」から、寺島船長以下3名が学校訪問したい旨、電話が入った。当日、寺島船長から本校にダイヤモンドヘッド沖を帆走する日本丸の勇姿を捉えた写真パネルの寄贈があった。この日、校長室に飾ってあった「銀河丸」の写真パネルを目にした船長から、「できれば、生徒の目につく場所に飾ってほしい」という申し出があり、早速、体育館へ通じる廊下へ掲げ、広く生徒の目に触れるように掲示した。

本校からは、「ペリー艦隊箱館来航160周年」バージョン2（図4）のパネルを差し上げた。

このパネルに採用した図版は、ペリー艦隊が箱館滞在中に作成した「THE HARBOR of HAKODADI」である。

この海図の右下に記された「Sailing directions」(水路誌)には、箱館に安全に入港するための地文航法が記されている。本校は、水路誌を翻訳して、平成21年と平成26年の2回、PTA体験乗



図5 平成26年度の「海のペリーロード」

船という事業の中で、北海道教育庁所属大型漁業実習船「若竹丸」(666トン)のご協力を得て、ペリー艦隊が辿ったと思われる箱館への進入コースを体験する再現航海を行ってきた(図5)。このコースを「海のペリーロード」と銘打って、水産高校から地域に発信している。来年度は、地歴科(旧「社会科」)教員の郷土史研修の一環として「海のペリーロード」を体験していただく案も出ている。

練習船の教官・実習生にも「海のペリーロード」の予備知識を得た上で函館に入港していただけると、函館を取り囲む山々がひと味ちがった風景に見えもするし、他の観光客とはまたちがった航海者としての思い出にもなると思う。そのためにも、今後、本校は「海のペリーロード」マップを作成して、函館に入港して来る練習船の実習生にマップを配る機会を与えていただけるといいかなと思う。160年前に、ペリー提督が、「How wonderful!」と感嘆して眺めた景色が今でも見られる。(※ 残念ながら、当時、海拔50m~60mあった砂山はもう見られない)

練習船の教官・実習生にも「海のペリーロード」の予備知識を得た上で函館に入港していただけると、函館を

3 「UW旗掲揚」活動

① きっかけ

函館には「UWを掲げる会」(澤田石 久巳会長)という会があり、「海の日」に関係官庁はUW旗を掲げませんかと働きかけている。本校はこの会の趣旨に賛同して、平成20年度から「海の日」はもちろん、本校の生徒や専攻科生が乗船している間は、下船するまでUW旗を学校前庭のポールに掲げた状態にしている。

航海訓練所の練習船に「UW」を掲げるようになったのは、平成25年8月に「青雲丸」船長等が本校を訪問してくださった時のことである。訪問に対するお礼に、出港当日、UWを掲げに行くことを約束し、その日以来、本校は「UWを掲げる会」と協力してUW旗を掲げ始めたのである。



② 青雲丸(平成25年8月)

函館港には「青雲丸」の出港を見に市民が集まっていた。UWを掲げるために、そばにいらっしゃったご夫妻にUWの旗の意味を話し、ついでに一緒に旗を持ってもらえないでしょうかとお願いしたところ、「この旗にそういう意味があるのなら、喜んで持ちます」と言ってくださり、一緒にUWを掲げてくれた(図6)。その直後、「青雲丸」から「UW1」がするすると掲げられた(図7)。この旗の意味をご夫妻に解説したところ、再び感激してくださった。この日、「青雲丸」が鳴らした汽笛は函館山にこだまして、市街を覆い尽くすように響いた。



図7 青雲丸に掲がる「UW1」

③ 銀河丸（平成 26 年 4 月）

沖から岸壁に向けて強く吹く風で、「銀河丸は離岸できないのではないか」と思える劣悪な状況の中、タグボートと協働して見事離岸に成功した。

この日は、「UW を掲げる会」会長と函館市港湾部長、職員が岸壁に駆けつけ、UW を掲げることの意義を会長が港湾部長に熱く語っていた。いざ、出港となり、会長が岸壁の街路灯に取り付けた掲揚設備を使ってUW を揚げた。間髪を入れずに「銀河丸」からUW1 が揚がった（図 8）。



図 8 「UW」と「UW1」

この日、タグボートのレッドマストにUW が揚がり、（えっ、珍しい!!）とすかさず写真を撮った人がいた。この方はタグの船長と知り合いだったので、後日、「船長、UW 揚げるなんて珍しいね」と尋ねたところ、船長は「陸でUW 揚げてる奴がいるんだもの、揚げねーわけにいかんべよ」と理由を説明してくださったとのことだ。

④ 日本丸（平成 26 年 10 月）

寺島船長が指揮する「日本丸」は、まれに見る巨大台風を避けた後、函館に入港してきた。「日本丸」は函館滞在中、函館運輸支局が主催する内航船員の人材確保育成事業「シップスクール」に



図 9 寺島船長、学校訪問

函館市内の小学五年生を招いたり、本校海洋技術科三年生の見学を受け入れたり、函館出身並びに函館の船会社に就職が内定している実習生の新聞取材に応じたり、本校を訪ねたり（図 9）、多忙を極めた。

出港当日は秋晴れ。さすが日本丸。函館西埠頭は見送りの人やカメラ撮影の人で賑わった。このような中で、いつものように UW 旗を手に持って見送っていると、やはり「その旗は何ですか？」と尋ねられる。いつものことだが、「UW」と「UW1」の意味を説明すると、感心してくれる。お孫さんが実習生として日本丸に乗船しているので、家族

総出で見送りに来たというお爺様は、「海軍さんは、万事、スマートだね」と表現なさった。

いよいよ出港。見ると実習生がマストに登り始めた。

（えっ、まさか?）と見ていたら、何と予定外の「登檣礼」のためだった。これに気付いた岸壁の集団は、皆、バウ スプリット側に移動を始め、興奮しながらカメラの列を敷いた。あるご婦人は「こんなことなら、いいカメラを持って来るんだったわ」と悔やんでいた。

「ごきげんよー」「ごきげんよー」が西埠頭にこだまして、海の若人を見送る人々は（頼もしいなー）（現代っ子もやるじゃないか）と思っただ（図 10）。



図 10 日本丸を見送る函館

惜しむらくは、せつかくの登檣礼に対して、拍手が起こらなかったことだ。函館の今後の課題かなと思った。

小さな女の子が大きな声で「バイバイ、またちてねー」と無邪気に叫んでいたことが印象的だった（図 11）。



図 11 「UW」を掲げる女の子

⑤ 青雲丸（平成 26 年 11 月）

「青雲丸」は強風と雷鳴の中、函館に入ってきた。夕刻に最初の雪になる。練習船、本年最後の函館寄港。出港の日は、打って変わって穏やかな天気。「UW を掲げる会」会長等と見送る中、青雲丸は何と登舷礼の形をとっている。さらに驚いたことに、「帽～振れ～！」の船内放送が岸壁まで聞こえてきた。岸壁はたった 3 人の見送りだったのだが、船長はここまで礼を尽くしてくださった。

帰途、この感動を押さえきれず、船員さんがよく利用する、西埠頭近くの「大黒亭」に立ち寄り、UW 掲揚活動の将来について語り合った。（図 12）。



図 12 登舷礼の後、「帽振れ」の青雲丸

4 互いを結ぶ「UW 旗」

UW と UW1 は、見送る側と見送られる側が互いに気持ちを通わせる海の文化のひとつである。UW 旗を掲揚することにより、函館市民に「海の文化」をほんのちょっとだけ啓蒙できたと思う。

函館には、他の港町同様、ペリー艦隊の歴史や、新島襄の米国脱国の歴史、洞爺丸台風の歴史等々、海・船に関する歴史が豊富にある。さらに、「鵬程萬里」の作詞者や、「函館商船学校～その歴史と廃校の考察～」の著者らがお元気に函館でお暮らしになっている。我々、海・船に生きる者が、まずもってこういう歴史や先人に光を当てて学ぶ。そういう活動をみなさんと一緒にできれば、函館商船学校の流れを汲み、来年、開校 80 周年を迎える本校にとってこの上ないことだと考える。（謝）

練習船文庫と全船協

事務局

全船協では、毎年航海訓練所練習船に図書を寄贈している。これは同所の限られた図書に対する予算では購入書籍は専門書に偏ってしまうため、余暇を楽しむための本を補充するためである。このごろ携帯電話が通じない、インターネットが使えないというような生活は若者にとって耐えられないと耳にする。それらの文明の利器を利用できない練習生にとって遠洋航海で図書は特に有効に利用されている。

船内図書室には、「全船協文庫」という書棚で保管されている。同じく海洋会からも同様に寄贈されている。

今年も11月28日七呂事務局長が航海訓練所を訪れ目録を竹井理事及び小澤情報通信システム室長立ち会いのもと飯田理事長に贈呈した。今後図書が購入され、各船へ配布されるとともに全船協へ具体的に購入した図書のリストも渡される。

尚、平成26年1月に購入された具体的図書リストについては、全船協ホームページ「会員ページ」へ掲載しています。



日本丸 全船協文庫



図書贈呈 (於 航海訓練所)
飯田理事長と七呂事務局長



大成丸 全船協文庫



全船協文庫と実習生

(一社) 横浜港振興協会「横浜港出前講座」

その 13, 14, 15

名誉会員・海事補佐人 田中善治



平成 26 年 7 月 10 日 (木)
阿王ヶ台自治会
(横浜市金沢区釜利谷東)

当日 11:30 京急線金沢文庫駅で、自家用車で講演用機材を持参して来られた横振協の寺島氏と待ち合わせて、会場の阿王ヶ台自治会館に向かった。この自治会では自宅に引き込みがちになる高齢者を対象に毎月一回、300 円の会費で食事会を開催しており、食後外部の者による講演の後デザートで締めくくるということであった。その事情を知らなかったのも、自治会館に着いてみると多くのご婦人方が食事の準備に大わらわだっただけにはびっくりした。幹事の宮原さん始め男性会員も集まって 12:30 手作りカレーの食事会が始まった。

食事後、全員で講演会場に模様替えし開演となった。

女性 26 名、男性 5 名、計 31 名で、圧倒的に女性が多かったのも、食事中宮原氏と講演の内容について話合った。いずれにしても海、船、船員を理解していただくにはやはり膨大な輸出入量の話から始めなければならなかった。頂いた講演時間は 60 分だったが、事前に幹事の了解を得ていたものの、多くの質問にお応えしているうちに 45 分もオーバーしてしまった。宮原氏のおっしゃるとおりもっと男性に参加して欲しいと思った。

平成 26 年 7 月 25 日 (金)
横浜赤レンガ倉庫 夏の臨海学校 2014
(横浜市中区新港)

赤レンガ倉庫 1 号館を管理運営している(公・財)横浜市芸術文化振興財団は、初めて企画した「夏の臨海学校」を開催することになり、横振協をつうじて講演の要請があった。

開催の前に鈴木副館長と打ち合わせしたが、主催者側も初めてのことで手探りの状態だった。この企画のメインイベントは 1 号館の 2 階に複数のブースを設け 25 (金) 26 (土) 27 (日) の 3 日間、講座、アニメーション映画、ワークショップ(プロ芸人による紙切り、バブルバー製造体験、身近な小物を使って作るファンシープランツ、100 年前の赤レンガ倉庫の瓦のカケラを使った小物作り等々) などである。

私の持ち時間は 11:00 ~、14:00 ~ 夫々 1 時間であった。ブースは通路側の仕切りがなく最大 30 名の椅子席で、通りがかった人が自由に着席できるようにになっていた。講演前にどのような方が、何名着席されているのか全くわからずに登壇するのは初めての経験だった。

午前の部は事前に申し込まれていて埼玉から来られたという、私と同じ年頃のグループ 11 名(男 4、女 7)及び途中で参加してくれた数名だった。同年輩という親近感もあり始めから質問や意見が飛び出して和気藹々のうちに終了した。終了後のご感想に、海に囲まれた日本には海運が不可欠であるということが解った。しかし、日常それに関する情報に接することがないのはどうゆうことか? と憤慨されていた。

午後の部は何人かの出入りはあったが計 12 名(男子小学生とその母 2 組、男 1、女 7)だった。その中にプロのイラストレーターがおられ、終了後、海や船の話をもっと聞きたいし色々な船の絵を画きたいのでアドバイスして欲しいとの話があった。又、小学生からはパナマ運河についてもっと知りたいとの感想をいただいた。

平成 26 年 8 月 20 日 (水)
鶴見区民地域活動協議会
潮田公園コミュニティハウス
(横浜市鶴見区向井町)

快晴猛暑の当日 13:15、京急鶴見駅で横振協の寺島氏と待ち合わせて徒歩 15 分、潮田公園内のコミュニティハウスに向かった。

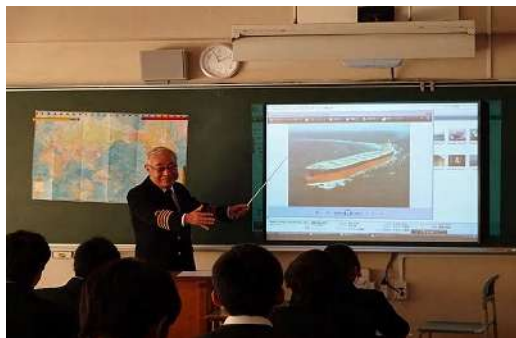
主催者は横振協を通じて講師はもちろん日時と場所を変えながら連続 6 回の講演会を企画しており、今回はその第 1 回目ということだった。初回の評判次第で 2 回目以降の出席者の多寡が左右されるとの主催者のコメントを胸に気を引き締めて臨んだ。

いただいた時間は 90 分だが、その場の雰囲気でも多少の延長は OK との了解のもとにスタートした。海運なくして我が国は一日たりとも生きていけない、すなわち「船が日本を支えている」ということにウエイトをおいて話を進めた。70 分を過ぎた頃から質問や意見をお受けした。専用船で積地に向かう場合空倉だと思うがその時の問題点は？日本はしばらく造船世界一を維持したが今はどうなっているか？VLCC から原油を陸上のタンクに揚荷するにはそのポンプはどこに設置されていて、容量はいくらか？海賊に遭ったことがあるか？キーマン方式以外に外国船に日本人船員は乗っているのか？等々、質問は多岐にわたり盛り上がった。結局 20 分オーバーの 110 分で終了した。

出席者 18 名（男 12 名、女 6 名）はもっと色々質問してみたような様子だった。

平成 26 年 1 月 2 日（土）
東京都立小山台高等学校
「社会人によるキャリアガイダンス」
（その 7）

本校での講演は平成 20 年 1 月に初めて以来今回で 7 回目である。この講座は「NPO 法人キャリアのきっかけ（代表 川上氏）」が企画されたもので、今回は私の他に弁護士磯崎奈保子氏 三菱重工業（株）大浜伸幸氏 東芝メディカルシステ



ムズ（株）大崎ひろき氏 による四講座が 10:30~11:30 の間、それぞれの教室に分かれて同時に開催された。

受講生は男子 15 名、女子 8 名、計 23 名。

私の講座のテーマは前回と同じ「船が日本を支えている」とし、資源に乏しい島国日本の輸出入事情からスタートした。前もって送付しておいた資料 6 枚、映像による船舶の紹介、持参した世界地図等を使って話を進めた。

全員の感想文をいただきましたが紙面の都合でその抜粋を紹介します。

* 船に関する事だけかと思っていたら、政治への目線や経済状況も知ることができ、有意義な時間でした。世の中は繋がっていると改めて実感でき、これからは物事に対する視野の広さや視点を変えていけると思います。

* 「船の話」から、日本が抱える外交問題の背景を深く知ることができました。3・11 後エネルギーが必要になった日本が強気になれない状態にあり、領土問題の悪化も外国に頼る日本だからこそと強く感じました。今まであまり興味がなかった「国際」という学問に強い興味が湧きました。

* マイルやトン数のような豆知識の話も面白かったです。船乗りに必要なことは普段の生活に通じている事、健康、協調性。私はバスケットボールをやっている所以他们がよくわかります。

* 「船が日本を支えている」ことがよくわかりました。これだけ輸入に頼っていると海外との関係がわるくなると日本は大変な状況になってしまうでしょう。島国なのに日本の船が思ったより少なくてびっくりしました。またフィリピン人の船員が多いのも意外でした。



「練習船遠洋航海記」をご存じですか？

事務局

航海訓練所の練習船が遠洋練習航海を終了した時、「遠洋航海報告」が作成され、希望者には、下船時に有料で販売されています。昭和5年から現在に至まで同様に行われているとの事で、この報告書を購入・保存している方は昔を懐かしく思う貴重なものとなっているとのことです。

また一方この報告書の存在を知らない方が年配者にもおられ、自分が体験した遠洋航海当時の報告書を読みたいということも聞かれます。

復刻版でも作成できれば良いですが、航海訓練所は航海毎の報告書を数冊纏めて製本化し保管しているので、残念ながらコピーは困難です。

用紙の劣化も進み各頁は紅茶色に変色しております。横浜近辺の方は、航海訓練所で保管されているものを閲覧できるとの事ですが、貸出はしておりません。

また、練習船で一緒だった5校の仲間の誰かが、持っておられるかもしれませんので声をかけてみてはいかがでしょうか。

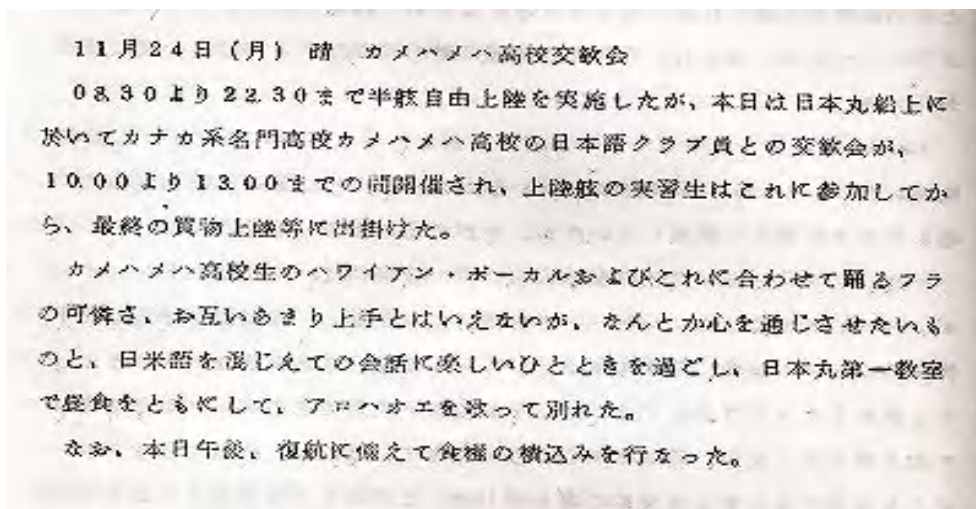


遠洋航海報告
表紙部分



航海訓練所にファイルして保管されている状況

このように若い時もあった。班ごとの集合写真が掲載された報告



入港地ハワイでの状況を示す記事

※インキが薄くなり不鮮明

第16回イレブンマリナーズ杯ゴルフコンペ開催

幹事 岩田 仁

第16回イレブンマリナーズ杯ゴルフコンペを26年11月11日南総カントリークラブで開催しました。南総カントリーに来るたびに雨だという参加者の声につられ手元にある分厚いイレブンマリナーズ杯のファイルを開くと第7回からの第11回まで5回連続で南総カントリーで開催しそのうち4回も雨に会っていた。参加者の記憶は確かで、ゴルファーにとって雨の恨みは特別なのでしょうか。

今度も雨かと午後からの雨が心配されましたが杞憂に終わり気持ちよくプレーを終えることができました。幹事が変わると天気も変わるかと意外なところで感謝された次第です。

今回は嗜好を変えて広く私たちの関連団体にも声をかけゴルフを通して仲間の輪を広げることを心がけました。その結果海洋会、全日本機関士協会からも参加していただきイレブンマリナーズ杯コンペにとってまた新しい1ページを開きました。

また、参加者11名中約半数の5名が初参加でした。わざわざ岐阜から駆け付けた小木曾さんありがとうございました。地元千葉からの初参加で優勝の加藤さんおめでとうございます。



南総カントリークラブ H26.11.11

次回の参加もお待ちしております。

2年ぶりに参加した吉田さんベストグロス賞おめでとうございます。腕はまだ錆びついていない！それとも密かに磨き続けていたのでしょうか。次回のスコアも期待しております。BBメーカーの水野氏は前夜の風邪で特に体調不良とのことでした。腕は確かなので次回のスコアを楽しみにしております。嗜好を変えながら常に新鮮なコンペに行きます。会員諸氏の次回の参加を心待ちしております。皆様 お疲れさまでした。

幹事 岩田 記

順位	氏名	OUT	IN	Gross	H/C	Net	所属
優勝	加藤 信一	49	48	97	33.6	63.4	鳥羽
2位	中村 泰	50	44	94	24.0	70.0	海洋会
3位	吉田 堯	43	44	87	14.4	72.6	弓削
4位	宮寺 重男	44	53	97	24.0	73.0	機関士協会
5位	小木曾順務	48	48	96	21.6	74.4	鳥羽
6位	富岡栄一郎	48	51	99	24.0	75.0	鳥羽
7位	平井奉行	45	44	89	12.0	77.0	機関士協会
8位	岩田仁	56	54	110	31.2	78.8	鳥羽
9位	飯島 寿	46	47	93	12.0	81.0	鳥羽
BB	内田成孝	49	55	104	21.6	82.4	大島
11位	水野博之	61	55	116	33.6	82.4	鳥羽

神戸支部「第26回といちクラブ」ゴルフコンペについて

神戸支部長 福地 赳雄

恒例の掲題コンペも26回目となりました。途中中断していた時期もありましたが、復活しております。

だいたい8組から10組5校持ち回り幹事で毎年開催されています。

今年の第26回ゴルフコンペは大島商船が幹事校となり西神戸ゴルフ場で11月11日(火)に開催されました。

成績等は下記の通りです。最高年齢87歳平均年齢70歳です。

次回は来年同日に同じ場所で開催予定です。関西在住を問わず腕に自信のある方は是非、挑戦して下さい。お待ちしております。

尚、全船協神戸支部もお手伝いしております。問い合わせは078-261-0585 福地 又は 森 迄

記

日時：2014年11月11日(火) 07:22 OUT/IN同時START

場所：西神戸GC

競技方法：ダブルペリア方式による18ホールストロークプレイ

成績表

順位	氏名	出身校	OUT	IN	GROSS	H'CAP	NET
優勝	澤田 憲治	富山	43	41	84	10.8	73.2
準優勝	中武 富雄	弓削	43	47	90	15.6	74.4
3位	山本 晴夫	広島	47	49	96	21.6	74.4
4位	田中 克彦	大島	43	50	93	18.0	75
5位	平野 知洋	大島	43	44	87	12.0	75
6位	藤本 忠孝	大島	50	47	97	21.6	75.4
7位	小池 信雄	弓削	46	44	90	14.4	75.6
8位	三誓 敏	富山	46	50	96	20.4	75.6
9位	松岡 静男	弓削	51	56	107	31.2	75.8
10位	在間 廣光	広島	47	46	93	16.8	76.2
11位	松本 昭治	鳥羽	54	44	98	20.4	77.6
12位	藤津 匡章	大島	45	45	90	12.0	78
13位	渡辺 嘉春	鳥羽	44	46	90	12.0	78
14位	入江 久寿弥太	大島	49	51	100	21.6	78.4
15位	藤原 賢	鳥羽	50	50	100	21.6	78.4
16位	福地 赳雄	富山	44	54	98	19.2	78.8
17位	山本 一三	鳥羽	51	47	98	19.2	78.8
18位	三ツ山泰正	富山	47	44	91	12.0	79
19位	是友 馨	広島	49	46	95	15.6	79.4
20位	梶川 尚紀	広島	59	52	111	31.2	79.8
21位	前 憲一郎	富山	44	54	98	18.0	80
22位	山本 雅規	弓削	54	55	109	28.8	80.2
23位	上手 義治	大島	59	50	109	27.6	81.4
24位	浦田 満	富山	53	50	103	21.6	81.4
BB	岩崎 敏壽	鳥羽	57	58	115	30.0	85
26位	有木 春三	広島	58	61	119	32.4	86.6

平成26年度商船高専卒業生進路状況

事務局

		富山			鳥羽			広島			大島			弓削			5校合計	
		航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	合計	比率
卒業 者数	本科	13	20		13	9		25	10		18	14		11	9		142	92%
	専攻科			3			0			4			3			2	12	8%
	(女子内数)	2	1	※	3	※	※	1	※	1	5	1	※	1	1	※	16	10%
	合計	36			22			39			35			22			154	100%
就職 状況	外航	2	5	1	1						3	3	1	1	2	1	20	13%
	内航	2	1		7	4		14	3		5	4	2	6	3	1	52	34%
	フェリー	1	1		2			5	1		1			1			12	8%
	探査船(海底資源)			1													1	1%
	港湾・倉庫										2						2	1%
	海運関連																0	0%
	造船・造機	1	4			1		1		2				1	1		11	7%
	海事関連団体									1							1	1%
	官公署																0	0%
	その他陸上	2	4	1		4		1			2	4			1		19	12%
	進学 大学	1	3		1			2		1	2	1					11	7%
	専攻科	2			1			2	2					2	2		11	7%
	SECOJ				1				1								2	1%
	その他(未定含む)	2	2						3		3	2					12	8%
小計	13	20	3	13	9	0	25	10	4	18	14	3	11	9	2	154	100%	
																合計	154	100%

今年度の進路状況の特徴

1. 船員を志望した卒業生の内約24%が外航海運、残り約76%が内航海運に就職している。
内航志望の傾向は定着してきていると思われる。
特に鳥羽は外航1名、広島はゼロとなっているのが目立つ。
2. この表には表示されていない各校からの報告内容を集計すると
 - ①外航20名のうち約半数の9名が大手三社（郵船、商船三井、川崎）に就職している。
 - ②鳥羽の内航13名のうち6名がU海運一社に集中している。
 - ③就職先を地域別にみると京浜地区52名、関西地区29名、地元47名、その他26名となっている。
その他の中には就職先未定者11名を含む。

海事ニュース

日本人船員量の確保へ検証

来月にも検討会「10年で1.5倍」目標

国土交通省の森重俊他海事局長は26日に行った記者会見で、外航日本人船員の量的確保・育成をテーマとした官労使による検討会を12月中に設置すると発表した。2008年にトン数標準税制の導入に伴って掲げられた「外航日本人船員を10年で1.5倍に」との目標の達成に向け、「目標までの期間が折り返しを過ぎ、現行の施策で足りているのか、足りていないことをまず洗い出す」（森重局長）ことを趣旨とする。

検討会は日本船主協会、全日本海員組合、国土交通省海事局の実務者級で構成。必要に応じて船主や関係団体の出席を求める。

当初の議題として、外航日本人船員の現状と、海事広報、船員育成・教育、船員採用活動一の各分野での取り組み状況を把握することに努める。

08年に国土交通大臣が定めた「日本船舶及び船員の確保計画に関する基本方針」が掲げる目標は、同年から10年間で外航日本人船員の数を1.5倍に増やすというもの。現状は「1.1倍程度」（海事局）にとどまっており、少子化に伴う人材供給不安も高まりつつある。

森重局長は会見で、「目標期間の後半を必ずしも悲観しているわけではないが、状況が厳しいことは確かだ。まず現状がどうなのかを把握した上で、新しい道具が必要なのか、現状の仕組みでいけるのかについて（官労使）3者で具体的な共通認識を持つことが重要。それによって今後のアイデアも出てくるだろう」と語った。

外航日本人船員の量的確保をめぐる公的な検討会としては、12年度末に最終取りまとめを行った船員・海技者の確保・育成検討会（座長＝杉山雅洋・早大名誉教授）が直近のもの。同検討会では、量的確保の戦略について産学官を交えて協議していくことが合意されていた。

（11月27日 日本海事新聞）

海洋産業人材を育成

17年度に新学部設置 東京海洋大

東洋海洋大学（岡本信明学長）は17日、海洋資源開発など新たな海洋産業人材を育成するため、2017年度に新学部「海洋環境エネルギー学部」（仮称）を設置すると発表した。国際的に通用する海洋技術者の養成が関係各界から強く望まれていることに応え、「統合的に海洋開発のプランニングやマネジメントができる海洋スペシャリストを育成して、わが国の海洋開発産業創出に貢献する」（岡本学長）

新学部設置は14年度の文部科学省国立大学改革強化推進事業「国際競争力強化のための海洋産業人材育成組織の構築」に基づき実施される。グローバル人材教育を加速するため、海底資源利用計画などの新規分野について、国内外の大学や研究機関などから教員を招聘する。

既存の学部では、海洋科学部を「海洋生命科学」（仮称）に再編し、水産学、食品化学技術、海洋バイオテクノロジー分野のさらなる活性化を図る。海洋工学部は海洋エネルギー分野の要素技術関連の教育研究強化や次世代海技者育成に向けた取り組みを推進。

一方、同事業では大学の機能強化に向けたカバナンス（統治）改革として「教員配置戦略会議」の新設（15年度）などに取り組む。

（11月18日 日本海事新聞）

「定着率低い」「応募ない」・・・ 内航船主人材確保に苦悩の声

内航船員の高齢化が進み、若年者確保が大きな課題となるなか、問題に直面する内航船主からは人材確保に苦悩する声が聞かれる。船員を増員する計画を持つ事業者からは「新たに人を集めようにも不安な状況」との意見も出ており、今後の事業展開への影響を懸念する声もある。海運組合の船主部会代表者で構成する船主連絡協議会（船連協）が10月22日に岡山市で開催した2014年度の地方大会でも、船員不足に対して危機感を持っている船主の意見が相次いだ。

ある内航船主は「オペレーターに運航してもらっていた大型内航タンカーが、数年後には当社で運航

する形態に切り替わる。10人くらいの増員を計画するが、人材を確保できるか不安。今から補充方法を思案している」と頭を抱えている。

既存船での人の確保にも苦慮する。別の船主は199総トン型や499総トン型の小型船の船員を集めることが難しいとの見解を示し、「運輸局に求人票を出しても応募はほとんどない。今、働いている人が急に辞めた場合、別の人を手当てすることは難しい。特に船長など主幹船員の確保は困難」と説明。若年者を採用した場合でも「雇用しても1年程度で退職してしまう。定着率が低いことが課題」とした。

小型船だけでなく、749総トンの型の船などでも船員の手当てに苦労するケースがある、との声も聞かれる。

全国海運組合連合会と全国内航タンカー海運組合の船主部会の代表者で構成する船主協が10月に開いた地方大会では、船員過不足状況など船員問題を中心に参加した一般船主から意見を聞いた。一般船主からは「予備員確保が困難」「人数的にタイトで、連続勤務の期間を延長させて対応している」「船員費をアップしないと船員が会社を辞めていく」など、船員確保が厳しいとの意見が相次いだ。船連協では、11月からスタートしたオペレーター訪問で船員問題などについて船主の実情を伝えていく。

(11月14日 日本海事新聞)

業界・荷主が協力し船員確保策を

記者の視点 鈴木一克

船員不足が内航ケミカルタンカーで深刻な状況だ。労働環境が厳しいことや他の貨物船への船員シフトも影響し、船員を確保できず停船する事態も起きているという。

全国内航タンカー海運組合（内タン）ケミカル貨物の荷主団体にあたる石油化学工業協会（石化協）は、意見交換を目的にした「内航ケミカル連絡会」を10月8日に都内で開催。内タンはケミカル船の現場が大変厳しい状況になっていることを石化協側に訴えた。

「ケミカル船の現場で何が起きているのか」を荷主に知ってもらい、現状を共有する。こうした目的で内タンは今回、初めて事業者から現場の実情を聴取し、内容を公表した。それを見ると、各事業者が置かれた

実情は大変厳しい。

事例をいくつか紹介する。交代船員が少ないため、通常の3-4カ月勤務で1カ月の休暇という形が崩れ、現状は半年乗船し続けている船員もいる「一等航海士を雇用するのに18カ月も費やした」定年退職者の雇用延長を実施した一など船員の確保に苦慮している。

内タンでは「過去にも船員問題が浮上したが、そのときは漁船からの転職者に助けられてしのぐことができた。しかし、こうした人材も高齢している。さらに船員養成機関の卒業者は、即戦力が求められるケミカルタンカーのような小型船では確保が困難」と指摘。人材不足に危機感を強めている。

内タンも手をこまねいているだけでなく、自ら船員確保策に取り組んでいる。船員問題検討タスクフォースを立ち上げ、船員養成機関などへの学校訪問を実施。近年は海技教育機構の傘下校や水産高校に加え、これまで対象外だった工業高校も訪ね、新たな人材確保に力を注ぐ。その結果、内航タンカー業界を目指す人も増えている。

今回の連絡会で船員不足の深刻化を訴えたことについて、同連絡会議長を務めた田淵訓生・内タン副会長（ケミカル・特タン委員長、田淵海運社長）は「陸上産業も人材確保が大変な状況で、船員問題は昨年より深刻さが増している。石化協側も、船員不足に対して理解いただけたのではないかと説明する。

この連絡会では、船員の荷役作業軽減のための要望を内航業界が継続的に実施。荷主側も改善に向けた取り組みをするなど、内タン側にとっても成果を挙げている。

実際の船員不足解消対策は内航業界自体が取り組んでいくべき課題だと思うが、船員確保に向けた環境整備は荷主も含めた関係者全体で考えていくべき問題だろう。船員が働きやすくするための荷役作業の軽減が進んだことと同様、内航業界と荷主が相互理解を深め、協力し合いながら人材確保を模索していくことが重要だ。

(11月5日 日本海事新聞)



富山高等専門学校

学 校

○校内カッター大会

校内カッターレース大会を7月22日に臨海実習場で行いました。レースは400m回頭のタイムレースです。当日は朝から曇り空となり、強い雨となる時間帯もありましたが、天候にも負けない白熱したレースが繰り広げられました。学生会が中心となり、予定していたレースを円滑に実施し、全クラス・全艇が競争に参加することが出来ました。クラスごとにオリジナルTシャツを揃え、各クラスが団結したカラフルで活気のある大会となりました。また、学生会の取り組みとして、今回も場内にてかき氷を販売し、大変な盛り上がりとなりました。現在の堀岡にある臨海実習場は移転するため、この場所での校内カッターレース大会も最後となります。来年度は新しい実習場での開催となります。



校内カッターレース大会

○全国商船高等専門学校漕艇大会

第49回全国商船高等専門学校漕艇大会が7月19日～20日にかけて富山高専を主管校として開催されました。ヨットの部では総合2位、FJ級2位、SH級SR優勝という結果を残しました。カッター部、ヨット部ともに部員一人一人が精一杯の力を発揮していました。

なお、結果は以下の通りです。(高等専門学校省略)

カッターの部

Aチーム：優勝 広島商船、2位 大島商船、3位 弓削商船

Bチーム：優勝 広島商船、2位 弓削商船、3位 鳥羽商船

ヨットの部

総合優勝 大島商船、2位 富山、
3位 弓削商船

FJ級：優勝 大島商船、2位 富山、
3位 弓削商船

SH級SR：優勝 富山、2位 大島商船、
3位 広島商船



全国商船高等専門学校漕艇大会

○全国高等専門学校体育大会

全国高等専門学校体育大会が8月18日～31日にかけて、四国地区の高専が担当となり開催されました。団体競技では陸上男子対校1位、バドミントン女子団体が2位、個人競技では陸上男子110ハードル、男子4×400mR、男子走幅跳、男子円盤投げ、女子100mで1位を受賞するなど、日頃の練習の成果を大いに発揮した結果となりました。

(学生主事補 商船学科 経田僚昭)

○平成26年度 商船学科卒業証書授与式および専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式 挙行

9月24日、平成26年度商船学科卒業証書授与式および専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式が挙行され、石原外美校長より本科33名、専攻科3名の学生に卒業証書、修了証書が手渡されました。

続いて「両親や先生、友人等に感謝の気持ちを持ち、人との出会いを大切にするとともに、本校で得た知識や技術、経験を糧として堂々と前進して欲しい」と校長から告辞が述べられました。また在校生代表として学生会長が送辞を述べ、さらに卒業生・修了生を代表して金場大輔学生は「乗船実習での試練を乗り越えることで人間として成長し、仲間との絆を強くすることができました。母校で学んだ経験を活かし、一歩ずつ前進します」と答辞を述べました。

卒業証書・修了証書授与式終了後、齋藤航大 学 生から改めて感謝の言葉が教職員や保護者に送られ、最後に卒業生全員により登壇礼に倣った挨拶が行われました。



卒業生による登壇礼

○工場見学、遠足

10月17日、第3学年はクラスごとに、県内の会社・工場を訪問し、工場見学をさせていただきました。商船学科3年生は、午前中に船舶や漁業用などのロープを製造しているメーカー、午後には船舶部品（シール・ベアリング製品）のメーカーを訪問しました。ロープを製造する工場では、高速で複雑な動きをしながらロープを撚っていく機械、ベテラン職人によるロープの仕上げ作業、ロープの強度試験装置などを見学しました。その後の質疑応答では、ロープに使用する各素材の性質や会社として努力していること、新製品の開発で苦労した点など、学生からの多くの質問に一つ一つ丁寧にお答えいただきました。

また午後から訪問した会社では、製造している部品に関する講義を受けた後、工場内を見学し、最新の工作機械による船舶部品の加工や、部品の精度点検作業の様子を見学しました。また質疑応答では、部品加工で工夫している点や、工作機械の進歩にともなう部品製造の変遷などについて詳しく教えていただきました。

訪問させていただいた会社が製造しているものは、船員が必ず触るものであり、これらの製造工程の見学、製造している社員の方とお話ができ、大変有意義な工場見学・質疑応答となりました。

また、第2学年は全クラスで岐阜県高山市へ行き、史跡・博物館の見学や、現地の美味を堪能していました。

○オープンキャンパス

11月8日と15日にオープンキャンパスが開催されました。各学科とも、学科の特色を前面に押し出した体験授業を中学生に行いました。商船学科では、まず1週目は航海シミュレータによるLNG船や本校練習船（若潮丸）の操船体験、小型ディーゼルエンジンの分解と組立、手回しによるエンジンの始動などの体験を行いました。続いて2週目は、若潮丸の船内見学や救命いかだの体験学習などを行いました。



また航海コースと機関コースそれぞれの代表学生により、商船学科や高専での学生生活などについて、中学生への紹介が行われました。

○10月から3月の主な行事予定

- | | | |
|--------------|---------------------------|----------------|
| 10月10日 | 2キャンパス合同球技大会 | 航海シミュレータによる操船体 |
| 10月17日 | 工場見学（第3学年）、遠足（第2学年） | |
| 11月8、15日 | 秋季オープンキャンパス | |
| 11月27日～12月3日 | 後学期中間試験 | |
| 2015年 | | |
| 1月21日 | 学生会長選挙、学寮会長選挙 | |
| 1月30日～2月18日 | 後学期末試験 | |
| 2月23日 | 卒業研究発表会（電子情報工学科、国際ビジネス学科） | |
| 2月27日 | 終業式 | |
| 3月18日 | 卒業式、修了式 | |

（教務主事補 商船学科 山田圭祐 記）

北斗会（旧 富山商船同窓会）

秋の色も濃くなりはじめた11月8日（土）に平成26年度の北斗会総会が、富山市内の富山電気ビルレストランで開催されました。参加者は昨年よりやや増えて48名でした。

協議内容としては会長交代を含めた役員人事と「統合同窓会」の設立に関して多くの時間を費やした結果となりました。主な役員人事は以下の通りです。

会長：	E25山口 光三	→	E24池田 茂
支部長：	富山 E24池田 茂	→	N63永守 徹
	関東 E25及川 武司	→	N59土屋 正徳
	関西 N57福地 赳雄	→	N59高橋 健治
	新潟 N61古川 隆	→	N55塚原 政和
事務局：	北海道 E36鳴海 鼓大	→	E25斉藤 實

「統合同窓会」とは学校統合から5年目で、来年3月に新卒業生（富山高専での入学者）が出るので、彼らのために？入会し易い合同の「新同窓会」を立ち上げるべきと校長からの提案があり、今回の総会議題となった次第です。内容に関しては未知の部分が多いため、はっきりとした流れが見えた時点で、会長・各支部長会議を開催し、参加の是非を決定することとなりました。

学校統合から5年、富山商船同窓会から北斗会、北斗会から合同同窓会。統合に振り回されている同窓会です。

事務局 佐々木

鳥羽商船高等専門学校

学 校

○本校練習船「鳥羽丸」が四日市港まつりに参加

8月2日（土）～4日（月）に本校練習船「鳥羽丸」は四日市港霞ヶ浦地区に停泊し、四日市港まつりに参加しました。

本校からは教員の他、有志の学生32名が参加し、8月3日（日）には体験乗船と一般公開をしました。また、カッター大会の運営を行うと共にレースにも参加しました。

四日市港ポートビル内では本校ブースを設け、各学科のPR活動を行いました。暑すぎない小雨の中、小さなお子さんから年配の方まで600人を超える方々に鳥羽丸を見学していただき、大盛況のうちに終了しました。



○サイテクランド 2014 in 鳥羽商船（公開講座）を開催

平成26年8月18日（月）から8月25日（月）にかけて、サイテクランド2014 in 鳥羽商船（公開講座）を開催しました。全部で6講座を開催し、延べ58名の小中学生が参加しました。

本校教職員の指導のもと、さまざまな科学体験をした受講生からは、「楽しかった。また参加したい」「プログラムのしくみがわかってよかった」ととても楽しそうな学校だと感じた」などの感想がありました。



○全日本ソーラー&人力ボートレース大会 2014にて「カマテック号」が学生総合優勝

8月23日（土）24日（日）の両日、全日本ソーラー&人力ボートレース大会2014が、愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンター



にて行われました。

今年も、本校から商船学科5年生を中心としたチームが大会に出場しました。23日は集中豪雨と突風の荒天となり、レース種目の変更になりましたが、全レース無事完走することができました。レースの結果は「学生総合の部・人力ボート部門・優勝」と素晴らしい結果を達成しました。今後も、高専生らしいアイデアと創造力で新たな記録へのチャレンジを期待していきたいと思います。

○いなべ市放課後子ども教室「ほくせい」を対象とした出前授業を実施

8月26日(火)にいなべ市放課後子ども教室「ほくせい」を対象とした出前授業「LEGOロボットを作ろう」の開設、及び練習船「鳥羽丸」公開を実施しました。

当日は、小学生37名のほか、保護者、子ども教室職員、市役所職員が参加いたしました。

「LEGOロボットを作ろう」では、子どもたちに馴染みのあるレゴブロックで、グループでロボットを組み立て、色や音に反応するようにプログラミングを行い、ロボットの操作に挑戦しました。

練習船「鳥羽丸」一般公開では、操舵室で船長から、船の仕組み、船の構造、船の航海計器の説明、またエンジンコントロールルームでは、機関長から船の推進の仕組み、船のエンジン、船の発電等の説明を受けました。子供たちには、夏休みの貴重な体験をしていただき有意義な1日となりました。



○第43回商船学科卒業式を挙

9月28日(日)、第43回商船学科卒業証書授与式を挙

式では、藤田校長から商船学科卒業生22名に卒業証書が手渡された後、校長式辞、鳥羽市長らによる祝辞、在校生送辞、卒業生答辞等が行われました。

式の最後に、白い制服姿の卒業生全員が一行に並び、在校生に向かって「ごきげんよう」と挨拶し、帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンスを行い、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。



○U-22 プログラミング・コンテストで経済産業大臣賞(最優秀賞)を受賞

制御情報工学科の学生チームが、10月5日に秋葉原UDXで開催されたU-22プログラミング・コンテストにおいて経済産業大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。

本校のチームが開発したのは、「P.M.カラ



オーケー「Projection Mapping KARAOKE」と名付けた次世代のカラオケシステムです。カラオケボックスの壁面に映像を映し出すもので、一つの壁には歌詞、別の壁には歌手の動きに合わせてスポットライトを照射したり、複数の分身を投影することができます。

本校の作品は、これまでのコンテストには見られなかった分野であることと、完成度の高さが評価されました。

○全国高専プログラミングコンテストにて優秀賞・特別賞を受賞

平成26年10月18日19日に岩手県一関市で開催された第25回全国高等専門学校プログラミングコンテストに本校制御情報工学科の3チームが参加しました。

自由部門にて「はなまるフォーム」が優秀賞（準優勝）、課題部門にて「人（ヒート）マップ」が特別賞（3位相当）を受賞しました。また、「はなまるフォーム」はNICT賞として起業家甲子園への出場権も獲得しました。

「はなまるフォーム」は、スポーツの上達をサポートするアプリで、これまでにないほど簡単な操作で自分や手本となる人の動きを確認することができます。

「人（ヒート）マップ」は、人の行動を地図に可視化するアプリです。SNSなどから情報を集め、地図にまとめることで災害時などに「この道は冠水しているようだから別の道を通ろう」などの判断をすることができます。

また、競技部門は初戦を2位通過しましたが、準決勝ブロックにて8位となり、残念ながら決勝進出はなりませんでした。



（制御情報工学科 中井 一文記）

鳥羽商船同窓会

今回は6月8日開催の鳥羽商船同窓会理事会・総会から11月2日開催の母校海学祭までの間の出来事をお伝えいたします。

☆商船学科5校合同進学ガイダンスへの参加

6月28日広島、7月6日横浜、7月20日神戸の3会場で開催されたガイダンスに各支部同窓会代表メンバーが参加し、ガイダンスに出席した中学生そして保護者のみなさんに鳥羽商船の魅力を発信しました。来年もより多くの生徒さんが鳥羽商船を受験してくれることを期待しています。

☆商船学科卒業式への参加

9月28日に举行された卒業式では航海コース13名・機関コース9名の後輩たちが社会に船出しました。



同窓会として、卒業式前の時間を利用し S44E 小木曾さんが「同窓会を頼りにしなさい」とのスピーチを行い、卒業式では山田副会長が祝辞を述べ、謝恩会では古川伊勢志摩支部長が祝いの万歳を発声しました。



☆同窓会誌の発行

9月29日、本部事務局10名が朝から同窓会事務室に集い3700通の同窓会報を送付しました。36ページカラー刷りの会報で同窓会や母校そして同窓の様子が記載されていますので是非ご覧ください。

☆同窓会事務所の増設

母校のご厚意により母校の創基100周年記念館1階にある同窓会事務室の隣部屋を借用し同窓会関連書類などの格納庫として使用することとなりました。

青春の思い出に輝く鳥羽の地を訪問した際は是非立ち寄ってみてください。

☆母校海学祭での出店

11月2日に母校で開催された海学祭に併せ、同窓会では「本部テント」「長老庵そば店」「中村コーヒー店」を出店し、来場された多くの方に元気な同窓会をアピールし楽しんでいただくことができました。



☆白菊寮の解体

本年年初から解体作業が進められていた思い出多き白菊寮は南寮・北寮の解体が終了し更地に変身しました。

鳥羽商船同窓会 会長代行 田中三郎

広島商船高等専門学校

学 校

○6月22日(日)：おもしろ科学体験フェスティバル2014を開催しました

呉工業高等専門学校、米子工業高等専門学校及び本校の主催で、イトーヨーカ堂福山店・天満屋ポートプラザ店「ポートモール」において、おもしろ科学体験フェスティバルを開催しました。当日はあいにくの天候でしたが、ロボコン展示やLED、エネルギー教室などを開催し、多くの方の参加がありました。今回の行事により“高専”の名がさらに広がることを期待しています。



○6月24日(火)：第1回タカハソレノイドコンテストで「いいね!賞」受賞しました

ものづくり同好会の仲井友紀(流通情報工学科5年)が発明した「そののいどん」がタカハ機工株式会社が開催した第1回タカハソレノイドコンテストにおいて「いいね!賞」を受賞しました。

「そののいどん」は、ソレノイドをスーパーカー消しゴムに見立てた新しい教材で小学校5年生の理科で学ぶ、電磁石の導線に電流を流し、電磁石の強さの変化を調べ、電流の働きについて、実験を行いながら考えることができます。また、受賞した作品は、6月24～26日に東京ビックサイトで開催された第19回機械要素技術展で展示されました。



○7月2日(水)：海上教室・体験航海(木江地区)を実施しました

大崎上島町において、「海の月間行事」の一環として、大崎上島中学校の生徒を対象に練習船「広島丸」による海上教室・体験航海を実施しました。

生徒達は、操舵室や機関室など船の設備見学を行った後、海の安全についての学習として、救命胴衣の着用訓練を行いました。普段経験できない航海体験をした生徒達は、船員の説明を興味深く聞いていました。また、呉海上保安部の巡視艇のデモ走行も行われ、広島丸の横を巡視艇が通り過ぎると、中学生達は歓声をあげていました。



○7月20日（日）：第49回全国商船高等専門学校漕艇大会で優勝しました

富山高等専門学校にて行われた第49回全国商船高等専門学校漕艇大会のカッター部門において、A・B両チームとも優勝し、報告会を行いました。



○7月23日（水）：「海辺教室&さざなみ探検」を実施しました

さざなみ学校（三原市幸崎久和喜）において、小学生を対象に「海辺教室&さざなみ探検」を三原市と共同で実施しました。

この事業は三原市と本校との共同研究によるもので、自然と環境への関心を高めてもらうこと
さざなみ学校（三原市幸崎久和喜）において、小学生を対象に「海辺教室&さざなみ探検」を三原市と共同で実施しました。

この事業は三原市と本校との共同研究によるもので、自然と環境への関心を高めてもらうことを目的に、本校の実習船「ひかり」に乗船してのさざなみ探検や、エネルギー環境学習、久和喜海岸での海辺教室を実施しています。

参加者からは、身近な環境について理解ができた、大切にしていきたいといった声を聞くことができました。



○7月30日（水）：海上教室・体験航海（尾道市）を実施しました

中国運輸局尾道海事事務所と本校の主催で、「海の月間行事」の一環として、尾道市内小学校児童とその保護者を対象に練習船「広島丸」による海上教室・体験航海を実施しました。児童達は、操舵室や機関室など船の設備見学や、海の安全についての学習として、救命胴衣の着用訓練を行い、船員の説明を興味深そうに聞き入っていました。海から見る尾道の街並みに陸上からの景色とは異なる魅力を感じてくれたようです。



○8月2日（土）：「商船学科 公開講座～あつまれ船長・機関長！2014～」を実施しました

本校の主催で、中学生とその保護者を対象に公開講座を実施しました。

参加者は尾道港から本校の練習船「広島丸」の操船体験などを行いながら、大崎上島にある本校を目指しました。本校では、操船シミュレーター、シーカヤック体験などを行い、実習船「ひかり」の操船体験をしながら尾道港に帰港しました。

本校の専攻科生が中心となって講座の運営を行い、参加者とふれあいながら互いに充実した時間を過ごしました。



○8月3日(日):瀬戸内しまのわ2014 ぼくたち、わたしたちの夏休み in 大崎上島 「海に体験! 船に体験!」を実施しました

広島県・愛媛県が実施している「瀬戸内しまのわ2014」の事業のひとつとして、「海に体験! 船に体験!」を行いました。

当日はあいにくの天気でしたが、多数の参加があり、本校の練習船「広島丸」での体験航海と商船学科の操船シミュレーター体験をしました。

体験航海では、航海中の船内にて、船員と学生が企画した4種類のミニ講座や船内見学を体験しました。操船シミュレーター体験では、リアルなシミュレーターに驚いた様子でした。どちらの体験も笑顔と驚きに溢れ、夏の思い出になったようです。



○8月25日(月):大崎上島中学校1年生を対象に海洋体験授業を実施しました

初秋の好天の下、大崎上島中学校1年生を対象に海洋教室を開催しました。生徒たちはシーカヤック・海洋観測・船内見学の3班に分かれ、アマモ場の観察や海水サンプルの塩分濃度・透明度分析などを行いました。

生徒たちは、今まで知っているようで知らなかった船や海洋環境に対する知識を学び、ふろさと大崎上島の海にふれあい、楽しい時間を過ごしました。



○9月20日（土）：平成26年度商船学科卒業生表彰伝達式を行いました



○9月20日（土）：卒業証書・修了証書授与式を挙行了しました

秋深まる中、商船学科35名、海事システム工学専攻4名が本校を巣立って行きました。

卒業生退場の際には、笛の音に合わせて整列し、“ごきげんよう”と3回合唱して帽子を高く投げ上げる恒例の挨拶も行われ、新たな旅立ちに惜しめない拍手が送られました。



○船員労働安全衛生の標語で佳作を受賞しました

9月に行われた平成26年度（第58回）船員労働安全衛生月間行事の一環で、船員災害防止協会が募集した「標語」の部において、本校商船学科3年の古山さんが応募総数961篇の中から佳作を受賞しました。

受賞した標語は「安全を 守れば広がる 笑顔の輪」で、船舶関係者一丸となって安全第一に取り組んでいます。



○10月4日（土）：「せとうち海上環境&体験航海セミナーみはら」を実施しました

三原市内の小中学生を対象に「せとうち海上環境&体験航海セミナーみはら」を三原市と共同で実施しました。

午前中は、本校学生による救命講座や海の汚れ調べ実験、アマモの育つ海の海洋教室を、午後からは本校練習船「広島丸」による体験航海を行い、航海中にはロープワークや操船の体験をしてもらいました。

参加者からは、「楽しかった、海を大切にしたいと思った」等の感想があり、海を身近に感じてもらえたようでした。



○10月12日（日）：恵美須神社祭礼の櫓伝馬に参加しました

大崎上島町沖浦地区で毎年開催されている、恵美須神社祭礼の櫓伝馬に本校の学生16名が参加しました。4艇の櫓伝馬のうち、3艇の櫓伝馬に本校の学生が分かれて参加しました。

息を合わせて漕ぐため、事前に練習を重ねて本番に挑みました。

地域の伝統行事に参加し、貴重な体験とともに地域の方との交流が深まりました。



○10月30日(木)：東広島市消防局大崎上島消防署と合同訓練を実施しました。

合同訓練は練習船広島丸において、船舶の火災、救急・救助事案に迅速な対応を図るため、船舶乗務員と消防との連携強化による安全・確実・迅速な災害活動の実施を目的とし、互いに協力し合い無事に訓練を終えることが出来ました。



○11月8日(土)：英会話実習「洋上交流会」を行いました(男女共同参画)

男女共同参画事業の第5回目として、Tara Yamashiroさん(ハワイ大学卒：英語指導助手)、森田茂雄さん(OB:元外航船船長)、奥田美幸さん(OG：海事英語講師)の3名を招き、英会話実習「洋上交流会」を行いました。



3・4年の女子学生14名が参加し「普段は授業でしか英語を話すことがないので良い機会となりました」などの感想が聞かれました。

この事業のアンケートでは、100%の学生から「満足」「ある程度満足」という回答があり、充実した実習となったようです。

(電子制御工学科 今井 慎一 記)

校友会

○5月25日(日)：第31回横浜港カッターレースに出場しました

平成22年第27回大会から全5高専商船学科チームがレースに参加する事となり、平成24年第29回大会より一般社団法人全日本船舶職員協会は横浜港カッターレースの後援団体に参画しています。昨年の第30回記念大会より全5高専の同窓会・校友会会長を招待し、大会翌日、同窓会・校友会会長と全船協役員との懇談会が開催され情報の交換が行われました。

○7月20日(日)：北九州市で体験航海を実施しました

北九州市との共同事業で、関門港(門司区)で小中学生とその家族を対象に体験航海を行いました。午前と午後の2回行った航海には、多数の申込みの中から抽選で選ばれた180人の参加がありました。

航海中には、本校の学生が船内紹介やスタンプラリー、船にまつわるクイズを行い、公開後にはロープワーク講習を行いました。

参加者の中には、何年も連続で参加されている方もあり、航海に満足いただくとともに、海や船に興味をもっていただけたようでした。



○7月 26日(土), 27日(日): 大和ミュージアム, 校友会(OB)と共同で体験航海&工作教室

大和ミュージアム, 本校校友会と共同で体験航海及びジャイロ効果を利用した押しでも倒れない電気コマ“C ブレード”工作教室を開催し, 呉市民をはじめ広島市や, 県内外の小中学生と家族の方に夏休みの休日を楽しみました。

翌日には本校練習船の一般公開を行い, 約 120 名の方々に優雅な船体と工夫された船内を見学しました。参加者は船内の様子を興味深そうに見入っていました。

また, 船内ではスタンプラリーも開催され, 子どもたちが楽しそうに船内の各所を巡っていました。



○10月 19日(日): 合祀式・臨時理事会を開催しました

平成26年度 校友追悼合祀式を学校の文化祭である商船祭と同日開催しました。

村上校長・植村事務部長の御臨席をいただき, ご遺族 21名, 校友 32名の列席の中実施されました。尚会長職は田葉副会長が代行されました。合祀式終了後第2会議室にて臨時理事会が開催されました。(今井 慎一 記)



大島商船高等専門学校

学 校

高専ロボコン全国大会ベスト4 ロボット名=大島具足蟲

10月5日に東広島運動公園体育館において、高専ロボコン2014中国地区大会が開催され、大島商船Aチームの大島具足蟲（オオシマグソクムシ）が見事、技術賞及び特別賞を受賞し、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2014全国大会に2年連続出場することとなり、11月23日に東京国技館で行われた全国大会に参加しました。

中国地区代表として参加した本校の『大島具足蟲』は、出前迅速といいながら、蒸籠がお客様へあと一步届かない。テストランでは2回とも届けることに成功しているのに…… 残念無念！けれど、1回戦、2回戦、3回戦ともに対戦相手も『大島具足蟲』のオーラの前になぜか出前が配達できずに判定に。奇跡の勝利を続けた『大島具足蟲』が準決勝へ進み、ベスト4です。準決勝では惜しくも敗れたものの。この日、“国技館イチ、もってる”と言われました。木製にこだわった伝統に、苦心を重ねここまで頑張ったことが、運も味方につけての大躍進でした。また、木製のユニークなフォルム、からくりを思わせる独特の機構が評価され、デザイン賞と特別賞（マブチモーター）をいただきました。

応援して下さった皆様ありがとうございました。国技館までお越しいただき、一丸となって応援に参加して下さった同窓会の皆様・保護者の皆様、厚くお礼申し上げます。



学校行事

○商船学科及び専攻科海洋交通システム専攻の卒業証書・修了証書式

平成 26 年 9 月 19 日（金）大島商船高等専門学校は、平成 26 年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙りました。今年度の卒業生・修了生は、本科商船学科 32 名（航海コース 18 名、機関コース 14 名）、専攻科海洋交通システム学専攻 3 名でした。

式辞において、石田廣史校長は、論語の一節を用いて、学ぶことの楽しさ、それをともに分かち合える友人の大切さ及び自分の芯を持つことの意義を説くことで、本校を母港としてこれから旅立つ卒業生・修了生に対する祝福と激励を行いました。また、地元周防大島町長、一般社団法人全日本船舶職員協会長、大島商船高専同窓会長より祝辞を頂き、続いて高等専門学校機構理事長他多くの祝電が披露されました。その後、在校生総代からの送辞に対し卒業生・修了生総代からの答辞、謝辞があり、卒業証書・修了証書授与式を終えました。

式終了後、卒業生は出港時の儀式である登橋礼（とうしょうれい）にならって「ごきげんよう」と 3 回叫び、帽子を高く投げました。



○防災訓練実施平成 26 年 11 月 17 日（月）大島商船高等専門学校では、防災訓練を実施しました。大島商船では災害に対する意識の向上及び万が一被災した場合の人的・物的被害を最小限にとどめることを目的として、前期と後期に 1 回ずつ実施しています。当日の防災訓練は、地震とそれに伴う津波が発生したという想定のもと行われました。誘導の教員の指示のもと、学生は速やかに集合場所である近隣の山のふもとに集合し、点呼をとりました。その後、校長より、



学生の速やかな避難行動に対する講評、教務主事より実際に被災した場合の心構えに関する訓話がありました。学生は被災時に自身の取るべき行動について、深く考えていました。

学生の活躍

○全国高専高等専門学校大会

8 月下旬に四国地区で行われた全国高専体育大会に中国地区を勝ち抜いて多数の学生が参加した。水泳競技において、電子機械工学科 3 年砂田一虎君は、男子 200m 個人メドレーにおいて、大会新記録の 2 分 0 8 秒 8 2 で優勝、さらに 200m 平泳ぎにおいても優勝した。団体

競技では、女子バレー部は準優勝、サッカー部は昭和53年以来の全国大会での勝利をあげた。

：第49回全国高等専門学校体育大会 結果（本校関係分）

団体競技

女子バレー部 準優勝

サッカー部 ベスト8

1回戦 本校 5-0 仙台高専 ※36年ぶりの全国大会での勝利

2回戦 本校 1-3 鹿児島高専

ソフトテニス部 ベスト8

1回戦 本校 4-0 阿南高専

2回戦 本校 4-1 石川高専

3回戦 本校 0-4 近畿大学高専

個人競技

陸上競技 三村 裕矢（情報工学4年） 男子 800m 3位

藤井 風花（情報工学5年） 女子 100m 4位

水泳競技 砂田 一虎（電子機械工学3年） 男子 200m 個人メドレー 優勝

砂田 一虎（電子機械工学3年） 男子 200m 平泳ぎ 優勝

国際交流

○在ホノルル日本国総領事と本校学生が懇談会

平成26年8月5日（火）大島商船高等専門学校において、在ホノルル日本国総領事館重枝豊英総領事と KCC（カウアイ・コミュニティカレッジ）英語研修に参加経験のある学生との懇談会を開催しました。これは、昨年度地元周防大島町とハワイのカウアイ島の姉妹島50周年を記念し、周防大島町長がハワイのカウアイ島を訪問した件をうけ、在ホノルル日本国総領事が周防大島町を表敬訪問する一環として開催されたものです。



当日は、KCC 英語研修に参加した5人の学生が重枝総領事との懇談会に出席しました。学生たちは、カウアイ島での研修内容や現地での国際交流について感じたこと等を率直に話していました。

○SMA 学生が大島商船高専訪問

平成26年10月5日（日）から11日（土）の日程で、SMA（シンガポールマリタイムアカデミー）の学生8名及び教員1名が本校を訪問しました。これは本校とSMAの間で結ばれた国際交流協定に基づくもので、今年度で6年目となります。

本校学生とSMA学生は、広島方面への研修旅行、スポーツ交流、そして2泊3日の大島丸体験航海を通じて親交を深めました。本



校学生は、英語によるコミュニケーションそのものに加え、シンガポール人の早い口調に最初は戸惑っていた様子でしたが、期間が終わる頃には、積極的に英語でコミュニケーションを取っていました。

○カウアイ英語研修報告会

平成 26 年 11 月 17 日（月）大島商船高等専門学校では、海外英語研修に関する報告会を開催しました。本校では交流協定を結んでいるハワイの KCC（カウアイ・コミュニティ・カレッジ）にて、例年 3 週間に及ぶ英語研修を行っており、今年度は 9 月 1 日～21 日の日程で開催されました。本報告会はそれに基づくものです。

当日は 6 名の学生が「カウアイについて」、「KCC での授業と活動、休日の過ごし方」及び「ホームステイ」と題して英語による発表を行いました。今回の研修は学生にとって国際交流について考える良い機会となりました。



○MAAP 英語教員による海事英語セミナー

文科省・大学間連携プログラム・海事人材育成プロジェクトにおいて、瀬戸内 3 商船高専で各 1 週間、フィリピン MAAP（Maritime Academy of Asia and the Pacific）より、教員が巡回して学生に英語研修を行いました。大島商船高専では 11 月 17 日（月）から 21 日（金）の 5 日間、1 名の講師がフィリピンより来校され、商船学科の海事英語研修を行いました。同時に、教員向けのセミナーもあり、多数の教員が参加しました。



地域との連携

○平成 26 年度大島商船地域連携交流会総会開催

平成 26 年 7 月 9 日（水）平成 26 年度大島商船高等専門学校地域連携交流会総会が開催されました。当交流会は、地元企業・自治体等が中心となり、大島商船高等専門学校との産学連携・地域連携の推進を目的として結成された組織です。

当日は約 40 名が出席し、総会の後、神戸大学名誉顧問薄井基洋先生による講演「スーパーコンピュータ 京 と関係研究」及び高井技術士事務所高井英夫先生による講演「世界と日本の常識・非常識」が行われました。出席した会員は、講演を興味深く聴いた後、それ



ぞれに交流を深めました。

○平成 26 年度周防大島町及び柳井市との懇談会

平成 26 年 7 月 11 日（金）、地元周防大島町との懇談会を開催しました。これは、連携協力協定を締結している周防大島町と大島商船高等専門学校が、お互いの運営方針・現況について情報交換を行い、イベント・行事等における相互協力の推進を目的として、毎年開催しているものです。当日は周防大島町の椎木巧町長からの挨拶の後、町の施政方針、予算概要等の説明が行われました。続いて、大島商船の石田校長の挨拶の後、昨年度の連携協力事業の実績報告があり、引き続き現況として、平成 26 年度教務予定、公開講座・教養講座・出前授業等の説明がありました。その後、町と学校が共同した防災訓練の実施や地域 PR のための取組等について、意見交換が行われました。

平成 26 年 7 月 25 日（金）近隣の柳井市との連携協力推進会議を開催しました。この会議は柳井市と大島商船高専で締結している連携協力協定に基づき、地域社会の発展と人材の育成に寄与するため、また、双方の発展及び運営に資することを目的として毎年開催しているものです。当日は、最初に出席者紹介が行われ、引き続き双方の昨年度の事業報告と平成 26 年度の事業計画について説明が行われました。その後連携した活動等について意見交換が行われ、よ



り多くの分野で協力関係を深めていくことが確認されました。

○大島老人クラブ連合会海洋研修

平成 26 年 9 月 17 日（水）地元周防大島町の大島老人クラブ連合会が、本校の練習船大島丸にて「宮島海洋研修」を開催しました。この研修は高齢者文化活動の発展を目的として、大島老人クラブ連合会と大島商船高等専門学校が連携し毎年開催しているものです。

当日は 41 名の参加者があり、大島丸での航海や、船長による講義、宮島での散策を思い思いに楽しんでいました。



地域活動

○高齢者向けパソコン教室

大島商船高等専門学校で、「高齢者向けパソコン教室～タブレット端末を使って楽しく学ぼう～」を開催しました。これは、本校情報工学科の学生達が、近隣の高齢者を対象として、マンツーマンでパソコンやタブレット等の使い方を指導するものです。今年度は以下の日程で行われました。

6月19日(木) タブレットの操作に慣れよう～ネットカメラ～

6月26日(木) テレビ電話で家族やお友達とお話ししよう

7月3日(木) 防災についてみんなで楽しく考えよう

7月10日(木) タブレットを自由に操作してみよう

初回は「タブレットの操作に慣れよう～ネット・カメラ～」をテーマに開催し、情報工学科の学生達がタブレット等にあまり触れたことのない受講生一人ひとりに、順を追って丁寧な説明を行っており、受講生の皆さんは、学生たちにさかんに質問され、タブレットを利用した情報の検索や、動画の閲覧などを楽しんでいました。

○練習船大島丸で婦人会研修会

平成26年6月7日(土)本校練習船「大島丸」にて、大島郡連合婦人会幹部研修会を開催しました。この研修会は大島郡連合婦人会からの依頼のもと、地域貢献の一環として例年開催しているものです。

当日は、約40名の参加者があり、出発の前に、石田廣史校長、中元連合婦人会長の挨拶の後、本木一等航海士による緊急時の行動等の注意がありました。研修会は宮島港との往復の間、大島丸船上において開催され、参加者は熱心に聴いている様子でした。



同窓会

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い致します。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝の事と拝察致します。

平成26年度商船学科卒業式が9月19日(金)に举行されました。航海訓練所での実習を終えた、航海コース18名、機関コース14名の32名が一段と逞しくなって巣立って行きました。また、専攻科生(海洋交通システム学専攻)3名も修了しました。

これらに加え、平成27年3月20日(金)には、電子機械工学科、情報工学科、電子・情報システム工学専攻の学生、78名が卒業・修了する予定です。

主に東京・京浜・大阪・神戸方面への就職・進学となりますので、各支部への参加を教示致しますので、御指導・御支援のほど宜しくお願い致します。

次に平成26年9月26日(金)に行われました、慰霊祭・定期理事会総会のご報告を致します。

議題は次の通りです。議事録につきましては、各支部会長に送付しておりますので、ご確認頂けると幸いです。また、ご不明な点やご質問等ございましたら、大島商船高専同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

- (1) 各支部活動報告
- (2) 会計関連承認事項(収支決算・予算・資産)
- (3) 平成26年度校内理事役割分担
- (4) 平成26年度就職進学状況(S,M,I)

(5) その他

- 平成 26 年度入学状況とアドミッション・アドバイザーの活動及び支援
- 同窓会会則改訂について
- 120 周年記念事業について
- 事務局より連絡など

同窓生皆様のご尽力もあり、優秀な入学生を確保することができております。今後とも、ご尽力の程、宜しくお願い申し上げます。また、このアドミッション・アドバイザーの活動に関して、ご意見・ご助言を頂けると幸いです。

同窓会事務局と致しましても、中学校への PR には時期と場所が非常に大切であるため、入試状況等を見ながら毎年理事会で審議し、その有効性や設置県などを検討していくことになりました。

最後になりましたが、寒さ厳しい折、お身体ご自愛下さい。

大島商船高等専門学校 同窓会事務局 (中村翼 記)

弓削商船高等専門学校

学 校

平成 26 年度商船学科卒業式

平成 26 年 9 月 20 日に商船学科 20 名の卒業式、専攻科 2 名の修了式が行なわれました。今年も真っ白な制服に包まれた卒業生が最後の儀式として「ごきげんようー！」と帽子を投げる姿はいつ見てもすばらしく、その成長振りを見せ付けられるばかりでした。式終了後は保護者、教職員、同窓会役員、来賓のみなさんを交えての祝賀会が後援会主催で開催されました。



平成26年度卒業予定者就職・進学先

商船学科		平成26年8月31日現在	
航海コース		機関コース	
就職(進学)先		就職(進学)先	
大阪水上バス(株)		弓削商船高等専門学校専攻科	
オーシャントランス(株)		ダイキンエアテクノ(株)	
(株)商船三井		三徳船舶(株)	
弓削商船高等専門学校専攻科		弓削商船高等専門学校専攻科	
旭タンカー(株)		日本海運(株)	
日東タグ(株)		(有)三原汽船	
弓削商船高等専門学校専攻科		鹿児島船舶(株)	
(株)イコース		川崎汽船(株)	
洞海マリンシステムズ(株)		川重原動機工事(株)	
新和内航海運(株)			
(株)マシン商会			
専攻科			
海上輸送システム工学専攻			
就職(進学)先			
日本海運(株)			
三徳船舶(株)			

全国高専体育大会陸上競技 女子 800m優勝の活躍

8月20-21日に高知県宿毛市で全国高専体育大会陸上競技が開催され、四国大会を勝ち抜いた本校陸上部員8名が参加しました。

参加種目は、400m,800m,1500m,5000m,走幅跳,三段跳,砲丸投,円盤投,女子100m,女子800mの10種目に出場しました。そのうち女子800mで情報工学科3年の白川友理さんが優勝(2'20"22)しました。また、男子400mで情報工学科5年の高原拓哉君が6位に入賞(50"61)し、走幅跳では電子機械工学科5年の秋山慶哉君も8位に入賞(6m28)しました。



“全国大会へ出場した陸上部員、センターは優勝した白川さん”

全国高専プログラミングコンテストで優秀賞および特別賞2作品

10月18、19日、岩手県一関文化センターにおいて開催された全国高専プログラミングコンテストにおいて、出場した課題、自由部門において参加した3チームすべてが入賞しました。3チームは、予選審査において課題部門では56テーマの中から21テーマ、自由部門では56テーマの中から20テーマに選出され、全国大会に出場しています。

課題部門のテーマは防災・減災対策と復興支援、自由部門では自由なテーマで独創的な作品が求められています。本校は、課題部門で2位にあたる優秀賞と3位にあたる特別賞、自由部門で特別賞を受賞しました。各作品の概要は以下の通りです。

課題部門：優秀賞

テーマ：光陰如箭 —A ray of hope—

学生名：宇崎裕太(4)、瀬尾敦生(4)、
肥田琢弥(4)、山本愛奈(4)

課題部門：特別賞

テーマ：i-BadgeOVER 島 NET

—子供見守り防災システム—

学生名：檜垣俊希(生 1)、岡野さくら(5)、
亀島加奈恵(5)、福羅亜利沙(5)、
村上麻矢加(5)



“プロコンへ参加した情報工学科の学生たち”

自由部門：特別賞

テーマ：Code on the Tablet

学生名：古谷勇樹(専攻科 1)、林真史(5)、山本隆弘(5)、井上香澄(1)、松川瑞樹(1)

(広報主事 副校長 益崎真治)

同窓会

同窓生のみなさん平成26年も終わり平成27年がスタートいたしました。新年あけましておめでとうございます。

今後も同窓会の運営にご協力のほどよろしく願いいたします。

新入会員（商船学科卒業式）の報告

去る9月20日商船学科20名の卒業式が学校にて行われました。残念ながら同窓会、全船協への入会者は18名となり、本年も全員が入会していただいております。今後も入会のご案内を続けますが、少しでも多くの方の入会を促していきたいと思っております。

ご入会いただいた卒業生の皆様の将来を同窓会ともども支えていきたいと考えておりますの



卒業式後の卒業生



後援会長 N70 新谷さんの祝賀会でのあいさつ

で、先輩方のご協力もよろしく願いいたします。

ご入会いただいた新入会員のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

本年も航海科コース、機関科コースからそれぞれ1名ずつ同窓会より卒業表彰を行いました。航海コースは池内稜君、機関コースは越智冬威君です。なお、本年の卒業生は航海科108期生、機関科79期生となります。

新造船練習船大成丸今治港来校での船員育成PR事業実施

去る11月2日、新造船の練習船大成丸が今治港で一般公開を行いました。これに合わせて同窓会、学校の連携による船員育成事業である学校のPR活動を行ってまいりました。当日は弓削から学校のE46益崎とSE77期川島君が手伝ってくれPR活動に参加しました。

現地でも多くの今治在住のOBの方の協力により学校パンフレット等を500枚程度配布する活動をおこなってまいりました。この事業は全船協より補助金をいただいている事業の一環として実施してまいりました。



造船所フェリー進水式での恩師との出会い

去る9月26日、瀬戸田内海造船にて本校OBペアが機関長E46山本一実君、1等機関士E46山本浩通君となる、フェリーボートの進水式がおこなわれました。船長を務める山本君の呼びかけで学生時代に担任をされていた恩師本田先生も広島から駆けつけました。

本田先生は1970年代に弓削商船で英語の教鞭をとられており、多くの卒業生に慕われておられました。その他、同級生の萩山君夫婦と野間君、益崎も駆けつけ、大変懐かしい出会いとなりました。お元気な先生のお姿をご報告いたします。



左から野間君、萩山君、本田先生、益崎

以上

本年も弓削商船高専同窓会、同窓生のみなさんよろしく願いいたします。

(E46期 副会長 益崎真治記)

(独) 航海訓練所

こんにちは。今号より、航海訓練所からの便りを寄稿させていただくこととなりました。よろしくお願いた

します。

さて、本誌を読まれているみなさまの中には、航海訓練所についてご存知の方もいらっしゃると思いますが、改めて航海訓練所について簡単に説明させていただきます。

航海訓練所は、1943年4月に当時の通信省海務院に設置され、練習船4隻(大成丸、進徳丸、日本丸、海王丸)で商船教育を開始しました。1993年に庁舎を東京から横浜に移転、2001年に独立行政法人に移行し、現在は2隻の帆船と3隻の汽船練習船を運航し、航海訓練に取り組んでいます。



日本丸(1984 住友重機浦賀)



海王丸(1989 住友重機浦賀)

航海訓練所は、国内の船員教育機関15校(商船系大学2校、商船系高等専門学校5校、独立行政法人海技教育機構の海上技術学校4校、海上技術短期大学校3校及び海技大学校)等から委託される実習生に対する航海訓練を行い、船員として求められる資質、知識及び技能を兼ね備えた優秀な人材を育成し、国内及び国外の海上輸送の安全と安定に貢献することを目指しています。

平成25年度は1,974名の実習生を受け入れました。その内訳は、商船系大学735名、商船系高等専門学校583名、海技教育機構656名となっています。現在の練習船5隻の実習生定員は708名であり、乗船率(四半期ごとの最大受入実習生数に対する練習船の稼働率)は90パーセント近くに達しています。これは、船内が非常に過密であるということを示しており、一昔前の練習船の様子とは大きく異なります。

商船系高等専門学校の実習は、平成23年度3月の船員(海技者)の確保・育成に関する検討会の結果を受け、従前の12か月連続した実習から、第1学

年～第3学年の間で1か月、その後第4学年、第6学年において、それぞれ5か月、6か月を行うスキームに変更されることとなりました。平成25年度から実習時期の移行を開始し、平成28年度に移行の完了を目指しています。

平成27年1月から3月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

日本丸

高等専門学校(航海科、機関科)5年

1/9～15 ホノルル、2/9 東京着、2/10 下船

大学2年

3/1 乗船、3/3 東京発、3/9～14 横浜、3/19

～23 細島、3/28 東京着、3/31 下船

海王丸

大学(航海科)4年

海技大学校航海専攻1年

富山高等専門学校(航海科)4年

1/5 乗船、1/7 東京発、1/17～21 和歌山、

1/29～2/2 門司、2/5～2/9 鹿児島、2/13～17

那覇、2/27～3/3 神戸、3/7 東京着、3/10 下船



大成丸(2014 三井造船玉野)



銀河丸(2004 三井造船千葉)



青雲丸 (1997 年裏住友重機浦賀)

大成丸

海上技術学校(本科)3年

1/5 乗船、1/7 東京発、1/15～19 門司、1/24～27 小松島、1/28～31 高松、2/6～10 別府、2/16～20 横浜、2/26～3/2 広島、3/9 東京着、3/10 下船

銀河丸

高等専門学校(機関科)5年

海上技術短期大学校(波方・宮古)1年
大学2年

1/5 乗船(海上技術短期大学校)、1/9 東京発、1/16～21 鹿児島、1/28～2/2 高松、2/9 神戸着、2/10 下船(高等専門学校)、2/13 神戸発、2/20～24 別府、2/27 神戸着、3/1 乗船(大学)、3/4 神戸発、3/9 横浜着、3/10 下船(海上技術短期大学校)、3/14 横浜発、3/20～25 博多、3/28 東京着、3/31 下船(大学)

青雲丸

大学(機関科)4年

海技大学校機関専攻1年

広島商船高等専門学校(航海科、機関科)4年

富山高等専門学校(航海科、機関科)4年

海上技術学校(本科)3年

1/5 乗船、1/7 東京発、1/16～20 長崎、1/27～31 那覇、2/10～14 広島、2/19～23 大阪、2/27～3/3 鹿児島、3/7 神戸着、3/10 下船

航海訓練所は、ホームページ及び Facebook 等の SNS を活用し、業務運営に関する情報、練習船における実習状況ならびに各寄港地でのイベント情報を発信しています。是非ご覧ください。

URL : <https://www.facebook.com/kohkun.go.jp>

HP : <https://www.kohkun.go.jp>

本部・支部だより

〈 本 部 〉

- | | | | |
|----------|---|----------|--------------------------------------|
| 14/07/18 | 全船協・海洋会・若葉会合同 海の
夜祭 横浜 | 14/09/19 | 大島商船高専商船学科卒業式出席
(赤嶺副会長) |
| 17/07/19 | 銀河丸出航式 横浜 (岩田、及川) | | 弓削商船高専商船学科卒業式出席
(小池理事) |
| 14/07/23 | 富山高専 運営諮問会議(及川) | 14/09/20 | 広島商船高専商船学科卒業式出席
(七呂事務局長) |
| 14/07/24 | 鹿児島大学水産学部魚水会訪問(七呂) | 14/09/22 | 国交省海事局海技課訪問 (岩田・及
川) |
| 14/07/26 | マルエーフェリー訪問(七呂) | 14/09/24 | 富山高専 商船学科卒業式出席
(及川) |
| 14/07/30 | (株)シーライン東京 求人関係で来会 | 14/09/25 | 東京湾水先区水先人会 航行安全に関
する講演会 (七呂) |
| 14/08/03 | UMI-POP'14×TAKENOKO!!!
船の科学館で開催(岩田) | 14/09/28 | 鳥羽商船高専 商船学科卒業式出席
(岩田) |
| 14/08/05 | 執行役員打合せ | 14/09/29 | 航海訓練所 研究発表会 (岩田・赤
嶺・相川・七呂) |
| 14/08/15 | 終戦記念日献花式・戦没船員の碑
(岩田・及川) | | 同所理事長訪問 (岩田・赤嶺・相川) |
| 14/08/19 | 船員災害防止協会神田専務理事(元航
海訓練所理事) 来会意見交換 | 14/09/30 | 広報・ホームページ合同委員会 |
| 14/08/20 | 第1回東京地方船員労働安全衛生協議
会・東京運輸支局(岩田・七呂) | 14/10/02 | 執行役員打ち合わせ |
| 14/08/22 | 海事プレス社 取材来会 | 14/10/03 | 第27回写真展「波濤を超えて」開会
式(岩田) |
| 14/09/02 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
マルエーフェリー飛龍21 | 14/10/07 | 海技教育財団 理事会(岩田) |
| 14/09/03 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
レストラン船2隻(シーライン東京) | 14/10/10 | 企画財政委員会
海技教育財団奨学生選考委員会
(七呂) |
| 14/09/04 | 大島商船高専 辻啓介副校長 来会
(瀬戸内三校北海道入試会場の件) | 14/10/17 | 海技大学校 引間俊雄校長 来会 |
| | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
貨物船2隻(伊豆七島海運・新島物産) | 14/10/19 | 広島商船高専校友会合祀式・理事会
(七呂) |
| 14/09/05 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
タグ2隻(芝浦通船・東港サービス) | 14/10/21 | 東京都教育庁 総務部人事担当課長
他2名様 来会 |
| 14/09/08 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
フェリー1隻オーシャントランス(お
ーしゃん さうす) | 14/10/22 | 2014年度第2回理事会 |
| 14/09/12 | 船員災害防止関東大会
(関東運輸局 岩田・七呂)
全船協横浜支部・海福協合同講演会
講師 東京海洋大学名誉教授
大津 皓平 氏 (帆船日本丸
訓練センター) | 14/10/23 | 航海訓練所 企画研究課 訪問
(岩田・七呂) |
| 14/09/16 | 日本海事広報協会による会長取材 | 14/10/24 | 第2回東京地方船員労働安全衛生協議
会・東京運輸支局(岩田・七呂) |
| | | 14/10/25 | 鳥羽商船京浜支部同窓会・大島商船小
松会同窓会(岩田) |
| | | 14/10/27 | 第2回HTW調査検討専門委員会
(及川) |

14/10/29 東京都観光汽船乗組員安全講話
(七呂)
14/10/30 広報・ホームページ委員会
14/10/04 一般法人解説セミナー (及川)
14/10/05 日本水先人会連合会訪問
(及川・七呂)

14/10/23 第51回横浜港湾関係者合同慰霊祭・久
保山霊場
14/10/24 東京湾水先区水先人会「第2回運営委員
会」
14/10/24 平成26年度第2回横浜海洋福祉協会理
事会兼横浜支部幹事会

< 横 浜 >

< 神 戸 >

1. 諸会合等
(1) 三役会議 7月4日 1回
計 1回
2. 具体的活動
14/07/08 第25回マリナーズ・アイ展開催、赤レ
ンガ倉庫8日～14日迄
14/07/18 平成26年度第19回「海の日前夜祭」開
催 (三団体共催)
14/07/19 練習船銀河丸 出航式・横浜港新港埠
頭5号岸壁参列
14/07/22 新大成丸 船内見学会参加
14/08/04 第29回「海に生きる者の絵画展」東京
芸術劇場にて開催、10日迄
14/09/05 東京湾水先区水先人会主催「安全運航
強調月間」、海中転落者救助訓練
14/09/12 平成26年度第1回海福協・全船協横浜、
合同講演会開催
14/09/29 航海訓練所へ練習船実習生が日本郵船
歴史博物館と氷川丸の船内見学が無
料で入館・乗船出来る様になった事に
伴う「広報活動の協力」依頼
14/10/03～13 第27回写真展「波涛を超えて」
(3日オープニングセレモニー)
14/10/21 海洋会横浜支部秋季懇親会 (10・14日
の予定を台風19号関東通過の為巡延)

14/07/14 内海水先人会集金に伺う
14/07/20 合同進学ガイダンス
於 練習船「青雲丸」
14/07/22 海の日式典 ホテルオークラ神戸、ビル
理事会
14/07/25 定例会 出席者 5名
14/08/20 青雲丸に全船協加入の説明会の為に訪
船
14/08/25～31 大久保 一郎遺作展
14/08/27 ビル理事会
14/09/26 ビル理事会、定例会 出席者 11名
14/10/09 神戸市振興協会セミナー開催 14:00
～、懇親会 17:00～
14/10/10 第1回企画財政委員会 (東京本部)
14/10/21 ビル理事会
14/10/22 第2回理事会 (東京本部)
14/10/27 定例会 出席者 8名
14/11/04 航海訓練所神戸分室長 山岸氏 来室
14/11/05 ビル理事会
14/11/11 といちクラブ ゴルフコンペ参加者
26名
14/11/13 商船学科振興協議会 (東京本部)

謹 賀 新 年
一般社団法人 全日本船舶職員協会

<p>副会長 赤 嶺 正 治 副会長 富岡 栄一郎 専務理事 及 川 武 司 理事 相 川 康 明 理事 大 賀 英 朗 理事 加 山 文 治</p>	<p>会 長 岩 田 仁 理 事 小 池 信 雄 理 事 七 呂 光 雄 理事 田 中 三 郎 理事 福 地 赳 雄 理 事 松 見 準 理 事 三 輪 史 郎</p>	<p>理 事 望 月 正 信 理 事 山 田 貢 監 事 亀 山 道 義 監 事 渡 部 英 利</p>
---	--	--

お知らせ

本会元役員のご逝去

本協会の活動に多大の貢献をされましたことに、深く感謝申し上げ哀悼の意を表します

元理事



山本 徳行 氏

平成 26 年 8 月 8 日ご逝去されました。(享年 82 歳)
ご冥福をお祈り申し上げます。

叙勲等 平成 10 年 10 月
スエーデン国王より北極星勲章を授与される。
平成 20 年 1 月
ラトビア外務大臣からの感謝状をヴァイヴァルス大使から授与される。

略歴

昭和 29 年 3 月 広島商船航海科専攻科卒業 N52 期
昭和 29 年 4 月 大阪商船株式会社入社
昭和 35 年 10 月 (株)ホームリンガー商会
平成 11 年度 通常総会に於いて校友会会長
平成 12 年度 関門支部長

役職等

本協会理事
広島商船高専校友会会長
全国高専同窓会連絡会事務局長
(有)ケイ・エム・エス コーポレーション取締役社長
スエーデン王国名誉領事
日本ラトビア音楽協会理事(九州ラトビア支援の会会長)

3 級機関海技免状の内燃限定問題は、現行通りと決定

練習船大成丸がこれまでの三代目タービン船から四代目が内燃機関船になったことに伴い、社船実習で 3 ヶ月間タービン船に乗船する者以外は、現在の 4 年生以降「内燃限定」の 3 級海技免状となってしまう問題が発生することについて、会報 124 号「練習船 四代目 大成丸就航へ」で紹介しました。

しかしその後国土交通省で関係する告示の一部改正が行われ、タービン船での履歴がなくても、これまで通り限定無しの三級海技士（機関）を取得できることになりました
本協会ホームページに関する記事が掲載されています。

お知らせ

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/entrance/osirase/osirase.htm>

会報 124 号 HP 版

「練習船 四代目 大成丸就航へ」

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/kaiho/124kaiho/8taiseimaru/taiseimaru.htm>



平成26年12月1日

船員教育分野の教員を募集します

＜海上技術学校・海上技術短期大学の航海科教員及び機関科教員＞

船員教育に意欲と熱意のある方の応募をお待ちしております。

I 募集内容

1. 海上技術学校及び海上技術短期大学校

(1) 募集職種等

海上技術学校又は海上技術短期大学校の航海科教員及び機関科教員 各若干名

(2) 応募資格

- ① 「三級海技士（航海）以上又は三級海技士（機関）以上の海技免許を受有後、船舶職員としての海上実歴が1年を超える者」又は「船員教育課程の四年制大学の卒業生（卒業予定者を含む）で、三級海技士（航海）又は三級海技士（機関）の海技免許を受有又は取得見込み者（※）」

（※）採用後に当機構において船舶職員としての海上実歴を付けていただきます。

- ② 一級小型船舶操縦士免許の受有者が望ましい
- ③ 年齢は、原則として50歳位まで
- ④ 全国転勤が可能な者。ただし、勤務地及び勤務条件については応相談。

(3) 提出書類

- ① 履歴書（本人自筆、写真貼付）
- ② 海上実歴書（船名、職名、乗船及び下船日を明記） ※海上実歴のある者に限る。
- ③ 海技免状の写し（一級小型船舶操縦士免許を受有している者は、当該免許証の写しも提出すること。）
- ④ 船員法施行規則（昭和22年運輸省令第23号）第55条に規定する健康証明書（船員手帳第十四表「健康証明書」）又はこれに類する健康証明書の写し

（注）①及び②の様式は問いません。

提出書類は、合否の如何を問わずお返しできませんので、予めご了承願います。

(4) 採用時勤務予定地

海上技術学校（小樽、館山、唐津、口之津）及び海上技術短期大学校（宮古、清水、波方）の中から配属先を決定します。

2. 採用予定日（各職種共通）

平成27年4月1日（水）

（※）三級海技士（航海）又は三級海技士（機関）の海技免許取得見込み者にあつては、当該免許を取得した後の採用となります。

3. 処遇（各職種共通）

給与等	当機構規程に基づき支給します。
勤務時間	始業8時25分 終業17時00分 休憩時間50分 7時間45分/日（38時間45分/週）
休日休暇	毎週土・日曜日、国民の祝日、年末年始 年次有給休暇 年間20日（採用日により異なる） 病気休暇・忌引等の特別休暇

II 応募の締切、書類の提出先等（各職種共通）

応募の締切、書類の提出先及び選考日程は、以下のとおりです。

1. 応募締切：平成27年2月2日（月）郵送必着

2. 応募書類の提出先：

〒424-8678 静岡県静岡市清水区折戸 3-18-1

独立行政法人海技教育機構 教育企画部 宛

（封筒の表に「応募する職種」を明記して下さい。）

3. 選考日程：

① 一次選考 書類選考（平成27年2月10日（火）予定）：履歴書等提出書類による審査

※一次選考合格者に対し適性検査を行いますので、ご承知願います。

② 二次選考 面接審査（平成27年2月26日（木）予定）：詳細は、一次選考合格者に別途通知

（注）面接に係る旅費、宿泊費等は応募者の自己負担となります。

4. 本件問い合わせ先：

独立行政法人海技教育機構 教育企画部 澤田、前里 TEL. 054-334-0972

会費納入者御芳名 (敬称略)

平成26年 7月29日～平成26年12月 3日

7月	8月	9月	10月	11月	12月
＜個人＞ (9,600円) 藤山 進 金子 俊介 塩見 慎介 秦 眞三 商船三井フェリー (4,800円) 相澤 功 筏井 啓 上山 雄基 清水 洋平 時松 勇貴 梨木 宗秀 富山 幸弥 廣瀬 潤一 前田 龍弥 内海水先区 水先人会 (9,600円) 青山 保 吾妻 文雄 有光 和生 井上 健二 宇高 保 岡田 輝幸 角石 勝一 上池 静夫 河合 謙太郎 河本 裕三 木下 健 木村 照孝 倉本 修 後藤 清治 小西 壽 小西 宏幸 小山 健一 坂本 洋之助 佐々木 重幸 島田 愛水 新家谷 聰	末岡 民行 末吉 光郎 高岡 昭男 高濱 洋嘉 立野 征生 田中 博昭 谷口 誠 丹後 和美 辻 武志 富永 信行 中尾 登一 中村 充美 中森 晴雄 西山 英二 二宮 眞澄 橋本 三郎 藤中 満 堀本 俊幸 松尾 和徳 松林 信義 松本 弘明 港 明広 武藤 兼廣 村嶋 秀 村田 勝久 本山 幹夫 森保 秀明 森脇 千秋 矢野 清 山口 清 山田 昌利 吉村 蔣造 大阪湾水先区 水先人会 ＜終身会費＞ (60,000円) 堀 眞琴 (9,600円) 風折 正美 末永 守 松浦浩三 松榮 正允 山本 隆史	菅原 央貴 杉本 真吾 高尾 幸徳 竹田 友丈 竹中 謙 田葉 行宏 田丸 修 徳森 生喜 中川 和俊 中平 金次郎 中山 眞澄 西川 広晃 西谷 直記 西谷 勇二 野場 修治 原田 大輔 藤森 学 二ツ石 聖示 淵上 勇二 本田 睦生 本望 隆司 前田 裕 南 正人 三吉 光雄 村岡 利春 森内 芳卓 矢澤 好正 安田 周真 山口 久雄 山本 康司 吉野 高広 早稲田 慎也 柏木 昭彦 加藤 正 川下 正剛 神田 修二 鬼頭 俊介 紀 光太郎 木村 潔司 斉藤 勉 佐々木 駿二 佐藤 杉雄 里本 幸大 芝 修次 清水 秀悟	川島 弘行 椎原 健郎 竹元 健 田中 善治 知野 高広 野崎 裕幸 山本 政規 渡邊 哲也 10月 山友汽船 (4,800円) ＜終身会費＞ (60,000円) 及川 武司 ＜個人＞ (9,600円) 石塚 洋 内中 豊 小林 司 中川 佳彦 中村 祐太 濱野 優二 11月 (9,600円) 水野 博之 三輪 史郎 玉井商船 (9,600円) 石川 祐二 清崎 哲也 千綿 信二 12月 ＜個人＞ (9,600円) 鈴木 重 川島 弘行 椎原 健郎 竹元 健 田中 善治 知野 高広 野崎 裕幸 山本 政規 渡邊 哲也 石屋 安生 板谷 拓実 岩江 成徳 川淵 仁 菊地 栄輝 北島 章市 高梨 満雄 多田 幸悦 長嶋 大介 中山 修作 名木 彰平 西川 勝久 仁藤 多喜男 畠山 進 濱本 邦夫 前田 重信 松ノ尾 明 松林 祐馬 松本 三與 三浦 宗義 村岡 稔 望月 正信 山田 和久 赤瀬 真由 赤瀬 正真 池内 稜 宇都宮 航平 越智 冬威 熊川 和真 五井 和貴 清水 啓矢 田窪 佑乃介 寺田 千徳 早柏 尊道 福重 郁 本田 一馬 前田 航成 三浦 拓海 溝越 快人 宮田 涼一 安永 真 土屋 秀生	商船三井オーシャン エキスパート 岡本 準二 桑原 眞樹 鈴木 剛也 角田 圭 鳥羽 角谷 稜真 長屋 孝 東尾 憲幸 谷水 愛奈 広島 江種 大宗 岡田 頼人 森川 航太 大島 磯村 祐督 大谷 誠 小栗 百恵 田中 健一 中上 愛子 長藤 美咲 平岡 俊朗 福喜 航大 村上 龍 森中 咲 柳井 智彰 横田 美保 弓削 赤瀬 真由 赤瀬 正真 池内 稜 宇都宮 航平 越智 冬威 熊川 和真 五井 和貴 清水 啓矢 田窪 佑乃介 寺田 千徳 早柏 尊道 福重 郁 本田 一馬 前田 航成 三浦 拓海 溝越 快人 宮田 涼一 安永 真 土屋 秀生	商船学科 卒業生 入会者 歓迎 全船協へ入会頂き誠に有り難うございます (4,800円) 富山 土屋 秀生

入会お礼

新たに入会された新卒者の皆様へ

会長 岩田 仁

昨年9月学窓を飛び立ち希望を胸に社会に第一歩を踏み出された皆さん、入会ありがとうございます。会員を代表し心より御礼申し上げます。

ご既承の通り本協会は海事技術者の社会的地位の向上、会員相互の親交と福祉の増進、母校の振興と発展等を目的として活動しております。新鮮な力で私たちの活動をご支援ください。

皆さん、新たな職場での日々の業務はいかがですか。順調に進んでいるでしょうか？時には先輩からの厳しい言葉あるでしょうね。あなたが期待されている証拠です。人生に波風、トラブルはつきものです。職場・会社の同僚も大切ですが会社以外の先輩・後輩との絆構築があなたの人生を豊かにしてくれるものです。困難に直面したら一人で悩まずに友人や先輩に相談、協会に声をかけるなどして乗り越えてください。協会はあなたの活躍を見守っています。

公開情報リスト

全船協で開催された理事会・委員会等に関する議事録等の資料はホームページ「会員ページ」で公表しています。

尚、パスワードは、次のQRコード又はURLで開いた全船協

用メール内に掲載されている4桁の数字です。

<https://mailform.mface.jp/frms/zensenk/kz8sr7leafnh>



ホームページの「会員ページ」で公表している資料

平成26年度	平成25年度	平成24年度
定款・規則・規程	第3回臨時アンケート委員会	第3回理事会
変更届け	第2回臨時アンケート委員会	第2回理事会
第1回VHF英会話委員会	第1回臨時アンケート委員会	第1回臨時理事会
第2回理事会	第2回VHF英会話委員会	第1回理事会
第2回広報ホームページ委員会	第1回VHF英会話委員会	第3回広報ホームページ委員会
第1回広報ホームページ委員会	平成25年度同窓会支援事業についての報告	第2回広報ホームページ委員会
第1回企画財政委員会		第1回広報ホームページ委員会
第1回臨時理事会	第3回理事会2回目	第3回船員教育調査検討委員会
第1回理事会	第3回理事会1回目	第2回船員教育調査検討委員会
平成26年度総会	第2回理事会	第1回船員教育調査検討委員会
平成26年1月航海訓練所に図書贈呈し購入された本のリスト	第1回理事会	第4回VHF英会話委員会
	第4回企画財政委員会	第3回VHF英会話委員会
「遠洋航海報告」航海訓練所で保管されている報告書のリスト	第3回企画財政委員会	第2回VHF英会話委員会
	第2回企画財政委員会	第1回VHF英会話委員会
	第1回企画財政委員会	平成24年度総会
	第1回広報ホームページ委員会	
	第1回船員教育調査検討委員会	
	第2回事業開発検討委員会	
	第1回事業開発検討委員会	
	平成25年度総会	

海の図書室

～新刊紹介～

ECDIS 訓練テキスト

海技大学校 ECDIS 研究会 編

本書は、ECDIS (Electronic Chart Display and Information System : 電子海図情報表示装置) 訓練で使用することを目的として書き下ろしたテキストであり、IMO Model Course 1.27 に示す、各章のポイントをできるだけわかりやすく実践的な内容でまとめました。

ECDIS は、航海当直を支援する機器であり、船橋内の情報が集約されたユーザーインターフェースといえます。ECDIS の無かった時代に培われた航海術と現在の航海術を比較しても、その出現により大幅に変化したわけではありません。しかし、ECDIS を効果的に使用することにより自動的に処理できることと操船者自身が判断して行うことが整理され、見張りや操船を行う時間と心理的な余裕が格段に増えると考えます。コンピュータ技術と同様に ECDIS はまだまだ発展途上にあり、ますます変化をし続けるでしょう。今までに得られなかったリアルタイムの気象情報やバーチャル標識の表示に加え、3次元での海図の表示も検討されています。

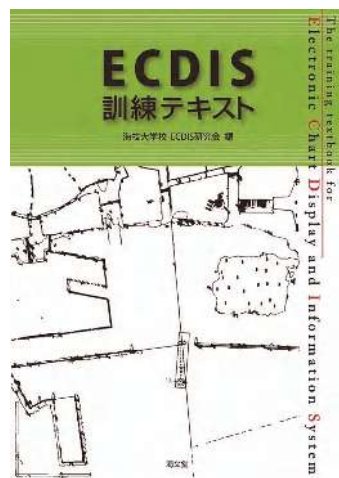
本書が ECDIS の理解を深めるとともに、安全航海の一助となることを切に願います。(「序」より抜粋)

B5判・176頁・定価(本体2,800円+税)

発行=海文堂出版株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4

TEL : 03・3815・3292 FAX : 03・3815・3953



<http://www.kaibundo.jp/>

究極の天測技法

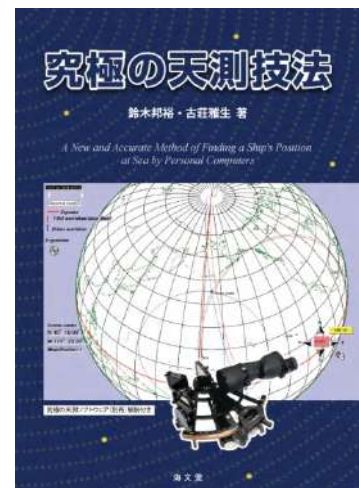
鈴木邦裕・古荘雅生 著

六分儀と別売ソフトウェアがあれば、天体暦も海図も用いずに、自分の位置を緯経度で求めることができる「究極の天測技法」を詳しく解説。ジャミングなどによってあっけなく使用不能になるGPSに頼ることなく、高い精度で位置を知ることができる。天文航法の専門知識は必要としない。六分儀の使い方も解説。

●本書の主な内容

- ・近似多項式を用いて常用天体の視位置を計算する手法を紹介
- ・イギリス暦及び天測暦に掲載されている63常恒星の視位置を角度1秒の精度で計算する手法を解説

- ・常用天体の視位置を求めるために必要な近似式の係数を掲載
- ・太陽系実視天体の観測において水星も観測できるようにデータを与えている
- ・索星の計算において、目的の恒星が属する星座を表示させることができるソフトについて説明



B5判・256頁・定価(本体3,000円+税)

発行=海文堂出版株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4

TEL : 03・3815・3292 FAX : 03・3815・3953

<http://www.kaibundo.jp/>



師走に衆議院総選挙と 国民の反応

安倍首相の消費税10%への引き上げを2017年4月まで延期するとの判断（重大な変更）に国民の信を問うとする衆議院解散、衆議院議員総選挙となった理由であるが、圧倒的多数の与党（自民党295人、公明党31人）の立場でしかできない技と見ている。
今回の選挙は上記理由以上に、安全保障上の閣議決定した「憲法解釈による集団的自衛権の

行使容認」とか、原発再稼働方針の原発政策、特定秘密保護法等の取扱いがあるように思える。経済再生、財政健全化へアベノミクスしかないとする与党に対し格差拡大アベノミクス失敗を唱える野党の選挙戦となるようだ。12月2日公示の14日投開票と、国民にとって「猫の手も借りたい」師走の忙しい時期に選挙戦・当落発表となる今年の12月は恒例のお歳暮商戦、クリスマス商戦と相まって、しまいには猫も踊りだす状況になりそうだ。投票数が減りそうだ。
何はともあれ、これからの日本をどの様にするか大切な選挙になることは間違いない。

(TO記)

表紙写真 地球深部探査船「ちきゅう」

(全長210m、総トン数56,752トン、船底からの高さ130m、建造完成2005年7月29日)

「ちきゅう」は大水深、大深度での掘削を可能にする科学掘削船です。

「ちきゅう」は、巨大地震発生のしくみ、地球規模の環境変動、地球内部エネルギーに支えられた地下生命圏、海底資源の成因など、人類の未来を開く様々な成果をあげることを目指しています。

編集後記

多くの方々の、投稿によって内容の充実したものとなりました。主要な記事である「北から南から」については従来の商船系高専5校の記事も内容が充実したばかりでなく、今回から新しく航海訓練所からも「便り」を頂くことになりました。

大島商船練習船防長丸の遭難慰霊の旅については、全船協80周年「全船協ウィーク in 帆船 日本丸」の記念展示パネルでも紹介されており、神津島の地元の方々の中に今も深く刻み込まれておられることについて感銘しました。函館水産高校からの投稿は「北から南から」としてお願いしましたが、旧函館商船学校跡地に設立されている同高校が同商船学校の伝統を今でも引継ぎ、函館に入港した航海訓練所練習船が出航する度に「UW」旗で見送る素晴らしい報告のため、あえて「北から南から」引き離して前面に掲載しました。このように今回の投稿には、人の心に訴える素晴らしいものを頂きました。今後の会報も、このような素晴らしい投稿があることを願っています。(MS記)

全船協 No.127 新春号

平成27年1月 発行

◇発行所 (一社) 日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司

〒101-0053 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル 8階

TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: honbu@zensenkyo.com ※メールアドレスが、1月から変更になります。

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 石橋 武

本 部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp> TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博 史

副会長 漆 畑 忠 雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所

〒455-0033 愛知県名古屋港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 中村 和 義

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 久 郷 良 夫

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

鹿児島水先区水先人会

会長 今村 義 幸

副会長 松下 忠 夫

水先人 橋之口 勉

〒891-0122 鹿児島市南栄5丁目10-8
電話 (099) 260-7707
FAX (099) 260-7717

清水水先区水先人会

会長 中川 三 夫

副会長 中村 政 一

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリンターミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

海事関係の皆さま

各種印刷・出版物の企画・制作は

業界知識と経験豊富な弊社まで、ぜひご一報ください。

ご予算、ご希望に応じて対応させていただきます。

日本海事新聞社 企画事業部

〒105-0004 東京都港区新橋5-19-2 新橋森ビル
Tel.03-3436-3224 Fax.03-3436-3273

■ センポスの宿・健康診断 ■

一般財団法人

船員保険会

会長 坂野 泰 治

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOビル 6・7階

電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <http://www.sempos.or.jp>



謹賀新年

咸臨丸の絆 軍艦奉行 木村撰津守と福沢諭吉

宗像善樹 著



福沢諭吉は木村撰津守の計らいにより咸臨丸に乗船することが出来た。このときアメリカの地を踏まなければ、後の福沢はなかったかもしれない。本書はあまり知られていない咸臨丸での二人の交流や、下船後も続いた深い親交について焦点を当てている。

福沢が何よりも感動したのは、木村が主従ではなく、人間として同じ目線で話してくれることであった。だから福沢は、船酔いで苦しむ木村に誠心誠意仕えた。そしてそれが、互いに、「木村さま」、「先生」と呼び合う仲にまで昇華し、太い「絆」となって二人を結びつけたのである。本書は、その「絆」を木村家以外の門外漢では知り得ない貴重な資料を駆使して、物語っている。(解説より)

元東京商船大学教授・元帆船日本丸船長 橋本進 氏

四六判 256頁 定価(本体1,600円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp



ようこそ美食のホテル
マリナーズコート東京へ

ご婚礼・ご宴会・各種会合・ご宿泊

レインボーブリッジをはじめとする東京湾の素敵な景観とともに
ごゆっくりお過ごしいただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京 〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 TEL.03-5560-2525 (代表)

海員会館ご案内

エスカル 釧路 (0154) 22-3998	ナビオス 横浜 (045) 633-6000
エスカル 室蘭 (0143) 22-7009	エスカル 神戸 (078) 341-0112
川崎海員会館 (044) 233-5896	エスカル 戸畑 (093) 881-0979
エスカル 横浜 (045) 681-2141	

<http://www.jswa.or.jp>

一般財団法人 日本船員厚生協会 電話 (044) 221-7210

どなたもご利用いただけます

【お知らせ】 全船協の本部・支部のメールアドレスが1月から変更になります

本部 honbu@zensenkyo.com
横浜支部 yokohama@zensenkyo.com
神戸支部 kobe@zensenkyo.com